

財政之儀ニ付建言



114
A 980
I



秀治頃日鈴水利亭神鞭知常等ノ調査進呈スル所ノ本邦
 高況ニ係ル諸表ヲ閱シ既往現今ノ情勢ヲ審按シ以テ將
 來ノ大勢ヲ推算スルニ實ニ黙止スルコト能ハサルモノアリ仍テ
 竊ニ利亭知常等ト議リ今此ニ鄙言一道ヲ呈ス閣下其言
 ノ喃々呶々ニ渉ルヲ厭ハス電覽一過ヲ賜ハ則幸甚
 利亭知常等前ニ已ニ我貨幣市上ノ現況ニ由リ其原因ヲ
 討論スルヤ詳カニシテ秀治等モ亦其論旨ノ著實ナルヲ
 信スルナリ然レモ今秀治等ノ見ル所ヲ以テスレハ則ニ
 子ノ論スル所ノ外尚一層ノ思索ヲ要ス可キモノアリ請
 フ之ヲ説カン夫レ我税関ノ輸出入表タルヤ之ヲ輕々ニ
 看過ス可カラサルモノアリ今其表ニ就テ之ヲ視レハ昨
 明治十一年九月ニ於テ外國物品及ヒ金銀ノ輸入ハ我物
 品及ヒ金銀ノ輸出ニ對シ貳百九拾余萬圓ノ超過ナリシ

天
 正十一年四月
 隈侯爵邸寄贈

ニ其十月ハ我輸出ノ多カリシヨリ輸入超過ノ額ハ頗ル
減却シ其十一月及十二月ニ至リテハ又更ニ減却シテ竟
ニ其輸入超過ノ年額ハ僅ニ七拾四万円余ニ至リタリキ
然ルニ本年一月ニ至リ我金銀ノ輸出多ク輸出總額ノ超
過百三拾万円ニ上リタレハ昨十一年ニ於テ我國ニ負フ
タル債額即輸入ノ超過額ハ本年一月ニ於テ之ヲ完清シ
タルモノ、如シ若本邦ノ輸出入ヲシテ我商ノ手ニ成ラ
シメハ則此推測ハ其當ヲ失ハサル可シトイヘ氏今ヤ本
邦ノ實際ハ則然ラズ輸出入ハ盡ク外商ノ手ニ成レルカ
故ニ表面ニ掲ケタル輸出品ノ價額ハ既ニ外商所得ノ利
益ヲ含ムモノニシテ事實我商ノ手ニ収メタルノ原價額
ヨリ更ニ多カラサルヲ得ヌ又表面輸入品ノ價額ハ之ニ
及シ事實我商ノ拂ヒ出タセル金額ヨリモ頗ル減少セル

ヲ知ルナリ何トカレハ外商ノ税関ニ呈出スル價書ハ多
クハ外國ノ真貨ヲ以テ其價額ヲ記載スルニ税関ニ於テ
ハ則之ヲ貨幣條例ノ比較ニ照シ以テ本邦金貨ニ換算ス
ルヲ例トナスカ故ニ其金円ノ價額ハ固ヨリ實際ノ活動
時價ト差違アル可キヲ以テナリ況ニヤ外商ノ我商ニ對
シテ販賣スルヤ必ス多少ノ利益ヲ加算セサル可カラサ
ルニ於テヲヤ加之間ク所ニ據レハ外商ノ奸猾ナル其税
関ニ呈出スルノ價額ハ或ハ詐偽ナキヲ保シ難シト割ハ
輸出品ノ價額ハ毎ニ洋銀其多キ居リ輸入品ノ價額ハ毎
ニ外國金貨其多キニ居ルモノニシテ而シテ表面所掲ノ
價額ハ則洋銀ハ壹弗ヲ以テ我金貨壹円ニ當テ外國金貨
ハ同位同量ヲ以テ我金円ニ換ヘタルモノナルカ故ニ之
ヲ事實ニ較スレハ已ニ輸出入ノ間ニ於テ洋銀壹弗ト我

金貨壹円ト、相場ノ差額丈ケハ必ス差違アルヲ免レサ
 ルノ數ニシテ而テ此差違ハ即表面外ノ輸入品價額ト省
 做サ、ルヲ得サルモノナリ。且輸出入物品ノ保険料及ヒ
 運賃等ノ如キハ全ク外商ノ手ニ歸スルモノニシテ而シ
 テ表ノ問ハサル所ニ在リ此等ノ實際ヲ細視スレハ我國
 常ニ輸出表面ノ價額ヲ收ムル能ハスモテ却テ輸入表
 外ノ債額ヲ支償セサルヲ得サルノ實アリ今此ニ輸出入
 表ニ就キ金銀輸出ノ超過額ヲ明治八年ヨリ十年ニ至ル
 ノ三年間ニ徴スルニ即下ニ掲クル第一表ノ如シ但シ此
 超過額ハ我外國公債元利ノ支償及ヒ在外ノ公使領事并
 ニ生徒ニ係ル費用及ヒ官用物品代價等ヲモ包含スルニ
 似ルトイヘレ我國在留ノ外國公使領事并ニ外商ノ我國
 ニ於テ費散セル金額モ亦頗ル夥大ニシテ皆是輸入ノ金

銀若シクハ物品代價ノ内ヨリ支償ス可キニ
 テ今概算外
 算外
 此概算
 列舉
 損額
 或ハ
 負債
 所ノ
 年ニ於テモ亦八百七十七万餘圓ノ金額已ニ超出シタル

年	輸出入表面	輸出入表面	輸出入表面	輸出入表面
明治八年
明治九年
明治十年
合計

姑ク之
 可シ若シ
 額ハ前ニ
 出入表面
 表外ノ
 年来ノ
 カ説ク
 七

金貨壹円ト、相場ノ差額丈ケハ必ス差違アルヲ免レサ
 ルノ數ニシテ而テ此差違ハ即表面外ノ輸入品價額ト省
 做サ、ルヲ得サルモノナリ。且輸出入物品ノ保険料及ヒ
 運賃等ノ如キハ全ク外商ノ手ニ歸スルモノニシテ而シ
 テ表ノ問ハサル所ニ在リ此等ノ實際ヲ細視スレハ我國
 ハ常ニ輸出表面ノ價額ヲ收ムル能ハスレテ却テ輸入表
 外ノ債額ヲ支償セサルヲ得サルノ實アリ今此ニ輸出入
 表ニ就キ金銀輸出ノ超過額ヲ明治八年ヨリ十年ニ至ル
 ノ三年間ニ徴スルニ即下ニ掲クル第一表ノ如シ但シ此
 超過額ハ我外國公債元利ノ支償及ヒ在外ノ公使領事并
 ニ生徒ニ係ル費用及ヒ官用物品代價等ヲモ包含スルニ
 似ルトイヘレ我國在留ノ外國公使領事并ニ外商ノ我國
 ニ於テ費散セル金額モ亦頗ル夥大ニシテ皆是輸入ノ金

銀若シクハ物品代價ノ内ヨリ支償ス可キモノナルヲ以
 テ今概算上ニ於テハ出入相殺ス可キモノトシテ姑ク之
 ヲ算外ニ措クモ敢テ格外ノ不當ニハ非ラサル可シ若シ
 此概算ニシテ格外ノ不當ナシトセハ則此超過額ハ前ニ
 列舉スル所ノ諸件ト其他ノ事件トニ由リテ輸出入表面
 ノ物品價額外ニ生出スル我損額以下之ヲ略シテ表外ノ
 損額ト稱スト首做サ、ルヲ得サルナリ

第一

或ハ	負債	所ノ	年
超過高物品 入高比較	四	二九、九七五、六二七	四
超過高物品 入高比較	三〇、三〇九、一三三	三三、三二七、〇二五	三
超過高物品 入高比較	一八、六一一、一一〇	三〇、六一六、一〇七	二
超過高物品 入高比較	一四、七一五、九一五	三二、三三六、四〇三	一
超過高物品 入高比較	二、三九六、四六八	三、八四〇、九二九	合計
超過高物品 入高比較	八、二七一、七二五	六、一七二、八八八	合計
超過高物品 入高比較	二、七七一、五二七	二、九二四、三三〇	合計
超過高物品 入高比較	一、六九七、七六四	三、二四四、一八九	合計
超過高物品 入高比較	二、七〇六、二八四	三、二〇一、八七五	合計
超過高物品 入高比較	二、一八〇、四六三	一、五八三、一三三	合計
超過高物品 入高比較	二、二五七、六四一	一、五八三、一三三	合計
超過高物品 入高比較	九、四六八、七七〇	一、五八三、一三三	合計

年来ノ
 カ説ク
 シ氏七
 ニタル

ルノ數ニシテ而テ此差違ハ即表面外ノ輸入品價額ト省
 做サ、ルヲ得サルモノナリ且輸出入物品ノ保險料及ヒ
 運賃等ノ如キハ全ク外商ノ手ニ歸スルモノニシテ而シ
 テ表ノ間ハサル所ニ在リ此等ノ實際ヲ細視スレハ我國
 ハ常ニ輸出表面ノ價額ヲ收ムル能ハスレテ却テ輸入表
 外ノ債額ヲ支償セサルヲ得サルノ實アリ今此ニ輸出入
 表ニ就キ金銀輸出ノ超過額ヲ明治八年ヨリ十年ニ至ル
 ノ三年間ニ徴スルニ即下ニ掲クル第一表ノ如シ但シ此
 超過額ハ我外國公債元利ノ支償及ヒ在外ノ公使領事并
 ニ生徒ニ係ル費用及ヒ官用物品代價等ヲモ包含スルニ
 似ルトイヘヒ我國在留ノ外國公使領事并ニ外商ノ我國
 ニ於テ費散セル金額モ亦頗ル夥大ニシテ皆是輸入ノ金

銀若シクハ物品代價ノ内ヨリ支償ス可キモノナルヲ以
 テ今概算上ニ於テハ出入相殺ス可キモノトシテ姑ク之
 ヲ算外ニ措クモ敢テ格外ノ不當ニハ非ラサル可シ若シ
 此概算ニシテ格外ノ不當ナシトセハ則此超過額ハ前ニ
 列舉スル所ノ諸件ト其他ノ事件トニ由リテ輸出入表面
 ノ物品價額外ニ生出スル我損額以下之ヲ略シテ表外ノ
 損額ト稱スト省做サ、ルヲ得サルナリ

第一

或ハ
 負債
 所ノ
 年

年	輸入物品高	同同金銀高	輸出物品高	同同金銀高	差引出超過	超過高ノ物品 入高比較割 割合
八年	二九九七五、六二七	三三三、二八六	一八六、一一一〇	一四七、一五、九一五	三〇、六	一〇、〇七 割合
九年	二三九六四、六七八	八、二七一、七二五	二七、七一、五二七	一〇、六九七、七六四	六一、七二、八八	二、五七 割合
十年	二七〇六、二八四七	二、一八〇、四六三	二、二五七、六、四一五	九、四六八、七七〇	三、二〇、一、八七五	一、二八 割合
三ヶ年平均割合						一、五三 割合

年来ノ
 カ説ク
 シル
 タル

ヲ以テ八年ノ超出額ハ即其年内ニ生出シタル負債ヲ償却シタルモノト者做スモ敢テ不可ナカル可キナリ而シテ九年ニ於テ我輸出品ノ第一位ナル生糸代價非常ノ高額ニ上リシト十年ニ於テノ輸入物品ハ十一年ニ入りテ尚多少外高ノ手ニ残りシトノ情實アルニ抱ハラス彼等ハ尚其三年間ニ九壹千貳百三十九万。八百七十五圓即三ヶ年ノ輸入物品元價九千八百。万三千百五十二圓ノ壹割五分三厘弱ニ充レリノ超過額ヲ輸出シ去レリ而シテ此超過額ハ三年間ニ於テ外高カ輸出ノ表面ノ物品價額外ニ諸般ノ事由ヨリ輸出シ得タルモノニシテ我レニ取リテハ即前ニ所謂表外ノ損額ト者做ス可キモノナリ然ルニ昨十一年ハ大井ニ前三ヶ年ニ及ミ出入ノ物品價額及金銀ヲ併セテ相殺スルニ却テ七十圓千二十七百四十圓ノ輸出不足ヲ生セリ即左ノ第二表

ノ如シ是最モ注意ス可キノ要点ナリ

第二

蓋シ昨十一年ノカリシ歟ノ價額非テ俄ニ此ノ市上金銀ノ縦令

輸入品	輸出品
金	金
銀	銀
銅	銅
鐵	鐵
錫	錫
鉛	鉛
鋅	鋅
鎳	鎳
鉻	鉻
錳	錳
鈷	鈷
鎘	鎘
鋁	鋁
鎂	鎂
鈣	鈣
ナトリウム	ナトリウム
カリウム	カリウム
アンモニウム	アンモニウム
亜鉛	亜鉛
錫	錫
鉛	鉛
鋅	鋅
鎳	鎳
鉻	鉻
錳	錳
鈷	鈷
鎘	鎘
鋁	鋁
鎂	鎂
鈣	鈣
ナトリウム	ナトリウム
カリウム	カリウム
アンモニウム	アンモニウム

年来ノ如ク表外ニ得ル所無ナラサリシ歟抑モ輸出品日ク否然ラハ則十一年ニ於ノ抑何ソヤ曰ク十一年ハ等前年ノ如ク其得ル所ノモ得サリシニ是因ルナリ而シ

カ。為メニ然ルニアラヌシテ全ク我市上ニ現貨多シキカ故ニ我高ク之ヲ買取スル能ハサリシニ由ルモノナリ夫レ斯クノ如クナレハ則我國ニ在テハ例年ニ異ナラサル

ヲ以テ八年ノ超出額ハ即其年内ニ生出シタル負債ヲ償却シタルモノト者做スモ敢テ不可ナカル可キナリ而シテ九年ニ於テ我輸出品ノ第一位ナル生糸代價非常ノ高額ニ上リシト十年ニ於テノ輸入物品ハ十一年ニ入りテ尚多少外商ノ手ニ残りシトノ情實アルニ抱ハラス彼等ハ尚其三年間ニ九壹千貳百三十九万。八百七十五圓即三ヶ年ノ輸入物品元價九千八百。万三千百五十二圓ノ壹割五分三厘弱ニ充レリノ超過額ヲ輸出シ去レリ而シテ此超過額ハ三年間ニ於テ外商カ輸出ノ表面ノ物品價額外ニ諸般ノ事由ヨリ輸出シ得タルモノニシテ我レニ取リテハ即前ニ所謂表外ノ損額ト者做ス可キモノナリ然ルニ昨十一年ハ大井ニ前三ヶ年ニ及ミ出入ノ物品價額及金銀ヲ併セテ相殺スルニ却テ七百四十圓ノ輸出不足ヲ生セリ即左ノ第二表

如シ是最モ注意ス可キノ要点ナリト

第二

蓋シ昨十一年	カ	テ	リ	テ	カ	レ
カ	テ	リ	テ	カ	レ	ス
價額非常	此反	市上金銀	金銀	繼令	為	我高
斯ク	如					

十一年	輸入物品高	三二五三六三八六四	四
	全金銀高	二一八九一〇一	四
	輸出物品高	二五五二四九七一	四
	全金銀高	八四八五九六五四	四
差引出不足		七四二七四	四

年來ノ如ク表外ニ得ル所無ナラサリシ歟抑モ輸出品日ク否然ラハ則十一年ニ於テハ抑何ソヤ日ク十一年ハ等前年ノ如ク其得ル所ノモ得サリシニ是因ルナリ而シタカラシムルモ是需要少ナキ全ク我市上ニ現貨多シキカハハサリシニ由ルモノナリ夫ニ在テハ例年ニ異ナラサル

ヲ以テ八年ノ超出額ハ即其年内ニ生出シタル負債ヲ償却シタルモノト看做スモ敢テ不可ナカル可キナリ而シテ九年ニ於テ我輸出品ノ第一位ナル生糸代價非常ノ高額ニ上リ

尚多少外	十一
尚其三年	三十九
三ヶ年ノ	八百七十五
五十二回	圓
出シ去シ	弱ニ充シリ
入表面ノ物	ハ三年間ニ於テ外商カ輸出
ノニシテ	取ノ事由ヨリ輸出シ得タルモ
ス可キモ	前ニ所謂表外ノ損額ト看做
シ出入ノ	一年ハ大井ニ前三ヶ年ニ及
四百二十	併セテ相殺スルニ却テ七十

ハ不足ヲ生セリ即左ノ第二表

如シ是

表二

高品出	四六八三六五二
高品出	一〇一八八二
高品出	一五五四二五五
高品出	四五五八四
高品出	〇四六四

要点ナリ

蓋シ昨十一年ニハ外商ハ前年来ノ如ク表外ニ得ル所無カリシ歟輸入物品ノ商販盛ナラサリシ歟抑モ輸出品ノ價額非常ニ夥多ナリシ歟曰ク否然ラハ則十一年ニ於テ俄ニ此反状ヲ呈ハセシモノハ抑何ソヤ曰ク十一年ハ我市上金銀已ニ乏シク外商等前年ノ如ク其得ル所ノモノヲ金銀ニ交換シ去ルヲ得サリシニ是因ルナリ而シテ縱令ニ外商ノ手ニ残品多カラシムルモ是需要少ナキカ。為メニ然ルニアラスシテ全ク我市上ニ現貨乏シキカ故ニ我商ヲ之ヲ買取スル能ハサリシニ由ルモノナリ夫レ斯クノ如クナレハ則我國ニ在テハ例年ニ異ナラサル

ノ債額
ナリ即
貴ヲ現出
之ヲ徴
ルノ三年
シテ以テ
額及ヒ金
殺スル
ノ損額
ノ如シ

四六八、三六五、二二三	品出ノ神中羊一十
一〇一、一八一、二	銀金ノ神工同
一、五五、四二五、五二	品出ノ神中羊一十
四、五、六、八、四、八	銀金出ノ神工同
三、四、五	貴貨(品)出ノ神
二、三、四	同定物
一、二、三、四	神銀(品)出ノ神
五、六、七、八	品出ノ神中羊一十

今眼ヲ金銀市上ニ轉スルニ十一月十月中金銀非常ニ騰

サリシノ情アル
ニ金銀ノ一大騰
到セルモノ以テ
年ヨリ十年ニ至
、超出額ヲ平均
ノ輸入物品ノ價
價額及金銀ト相
我負債額即表外
ハ即左ノ第三表

貴セシニ當リ偶々茶卵紙代價若干ノ裁商ノ手ニ歸シタ
ルト反シ其他ノ事由トニ因リ一時頰ル其相庭ヲ低下セ
シト雖モ數週ヲ経スレテ復々漸次ニ上騰シ本年一月ニ
至リ金銀輸出ノ巨額ナリシカ為メニ相場ハ尚更ニ騰躍
シテ終ニ去年十月ノ最高点ノ上ニ登リ二月又進ニ終ニ
三四月ノ狀況ニ至レルニ乏テ去年ヨリ今年ニ貽セル負
債前表ノ如キニ歸セサルヲ得ニヤ爰ニ於テカ出處ヲ詳
ニセサルノ真貨數十萬圓往々市上ニ現出セルモノアリ
洋銀取引所ノ改革アリ又世上ニハ專ラ政府若クハ其他
ヨリ相當ノ真貨ヲ出シテ以テ此騰貴ヲ抑止セラルヘシ
ト紛紜シテ人情ヲ疑惑セシメタルモノアリ而メ是等ノ
事ハ能ク三月以降ノ金銀相場ヲ壓止シテ以テ新茶輸出
ノ期ニ及ヘリ然レモ秀治等ノ所見ニ據レハ新茶ノ輸出

ノ債額ヲ負フテ而シテ之ヲ償却シ能ハサリシノ情アル
 ナリ即十年前九月十月ニ於テ我貨幣市上ニ金銀ノ一大騰
 貴ヲ現出シ終ニ本年三四月ノ狀況ニ迫到セルモノ以テ
 之ヲ徴スルニ足ル可キナリ今試ミニ八年ヨリ十年ニ至
 ルノ三年間ニ於テセル物品價額及金銀ノ超出額ヲ平均
 シテ以テ一年分ノ額ヲ定メ之ニ十一年ノ輸入物品ノ價
 額及ヒ金銀ヲ加ヘ以テ同年ノ輸出物品價額及金銀ト相
 殺スル時ハ則十一年ヨリ今年ニ残レル我負債額即表外
 ノ損額ハ推知スルヲ得可キナリ其計算ハ即左ノ第三表
 ノ如シ

今眼ヲ

中金銀非常ニ騰

十一年中輸入物品	三二、五六三、八六四	三四、七九二、九六五
同上輸入金銀	二、一八九、一〇一	
十一年中輸出物品	二五、五二四、五七一	三四、〇一〇、二二五
同上輸出金銀	八、四八五、六五四	
輸出入物品高差引負債		七四、二七四、〇
明治八年及十年平均表面外換額即輸 入物品高ノ一割五分ニ至		四九、八二、二七
明治十一年中負債總高即本年ノ残額		九、七二五、〇一

商ノ手ニ歸シ
 其相庭ヲ低下セ
 騰シ本年一月ニ
 場ハ尚更ニ騰躍
 二月又進ニ終ニ

三四月
 債前表ノ如キニ歸セサルヲ得ニヤ爰ニ於テカ出處ヲ詳
 ニセサルノ真實數十萬圓往々市上ニ現出セルモノアリ
 洋銀取引所ノ改革アリ又世上ニハ專ラ政府若クハ其他
 ヲリ相當ノ真貨ヲ出シテ以テ此騰貴ヲ抑止セラルヘシ
 ト紛紜シテ人情ヲ疑惑セシメタルモノアリ而メ是等ノ
 事ハ能ク三月以降ノ金銀相場ヲ壓止シテ以テ新茶輸出
 ノ期ニ及ヘリ然レモ秀治等ノ所見ニ據レハ新茶ノ輸出

ノ債額
ナリ即
貴ヲ現出
之ヲ徴
ルノ三
シテ以
額及ヒ
殺スル
ノ損額
ノ如シ

第三

四六八、三六五、二二三	品計ノ下中半一十
一〇一、六八一、二	品計ノ上中半一十
一、二五、四二五、五二	品計出納中半一十
四、五、六、七、八、九	品計出納上中半一十
〇、四、五、六、七	品計出納下中半一十
一、二、三、四、五	品計出納上中半一十
一〇、五、九、五	品計出納下中半一十

サリシノ情アル
上ニ金銀ノ一大騰
到セルモノ以テ
八年ヨリ十年ニ至
年、超出額ヲ平均
ノ輸入物品ノ價
價額及金銀ト相
我負債額即表外
ハ即左ノ第三表

今眼ヲ金銀市上ニ轉スルニ十一年十月中金銀非常ニ騰

貴セシニ當リ偶々茶卵紙代價若干ノ我商ノ手ニ歸シタ
ルト及ヒ其他ノ事由トニ因リ一時頗ル其相庭ヲ低下セ
シト雖モ數週ヲ経スレテ復々漸次ニ上騰シ本年一月ニ
至リ金銀輸出ノ巨額ナリシカ為メニ相場ハ尚更ニ騰躍
シテ終ニ去年十月ノ最高点ノ上ニ登リ二月又進ニ終ニ
三四月ノ狀況ニ至レルニ乏テ去年ヨリ今年ニ貽セル負
債前表ノ如キニ歸セサルヲ得ニヤ爰ニ於テカ出處ヲ詳
ニセサルノ真實數十萬圓往々市上ニ現出セルモノアリ
洋銀取引所ノ改革アリ又世上ニハ專ラ政府若クハ其他
ヨリ相當ノ真貨ヲ出シテ以テ此騰貴ヲ抑止セラルヘシ
ト紛紜シテ人情ヲ疑惑セシメタルモノアリ而テ是等ノ
事ハ能ク三月以降ノ金銀相場ヲ壓止シテ以テ新茶輸出
ノ期ニ及ヘリ然レモ秀治等ノ所見ニ據レハ新茶ノ輸出

ハ永ク金銀相場ヲ抑止スルニ足ラサル可キヲ信スルナ
 リ
 抑モ秀治等ノ憂慮スル所ハ帝ノ現在ノ負債ニ止マラス
 シテ今十二年々末ノ景況如何ニ在ルナリ夫レ本年ニ於
 テ内民カ外物ヲ購求スルハ蓋シ昨年ノ如キノ大額ニ至
 ラサルヘシト雖モ亦必ス一昨十年ノ額ニ下ラサル可シ
 何トナレハ一旦國內小民ノ手ニ散布セシ紙幣ハ未ク全
 ク有為者ノ手ニ帰セスミテ尚小民ノ手ニ存スル者アル
 ラ以テナリ故ニ今年輸出物品ノ價額ハ共二十年及
 十一年ノ平均額ニ在ルモノト假定シ其輸入物品ノ價額
 ニ加フルニ前三ケ年間平均ノ表外損額一割五分三厘第
 一表ト照ス可シヲ以テシ以テ之ヲ推算スレハ本年々末
 ニ於テ本邦ノ負債タルモノハ左ノ第四表面ノ大額ニ上

第四

夫レ九年ハ	金銀ノ輸	額	八〇五
其輸入モ	亦巨額	ニ	四一
貳百四十二	萬圓	以上ナリ然レ	
場金ト紙	幣	輸出ノ超過額ハ	
八錢ノ位	在	年十二月ノ平均相	
輸出金銀	高	騰貴ハ之ヲ其以來ノ	
ヲ得ス	則	ルモノト做サ	
千五百	金銀ノ騰	ラシマハ即壹	
輸出セサル	貴	クシテカ假令	
ナリ然ルニ	高	輸出セシテ九年以來	

ハ永ク金銀相場ヲ抑止スルニ足ラサル可キヲ信スルナ
 リ
 抑モ秀治等ノ憂慮スル所ハ帝ヲ現在ノ負債ニ止マラス
 シテ今十二年々末ノ景況如何ニ在ルナリ夫レ本年ニ於
 テ内民カ外物ヲ購求スルハ蓋シ昨年ノ如キノ大額ニ至
 ラサルヘシト雖氏亦必ス一昨十年ノ額ニ下ラサル可シ
 何トナレハ一旦國內小民ノ手ニ散布セシ紙幣ハ未ク全
 ク有為者ノ手ニ歸セスシテ尚小民ノ手ニ存スル者アル
 ラ以テナリ故ニ今年輸出物品ノ價額ハ共二十年及
 十一年ノ平均額ニ在ルモノト假定シ其輸入物品ノ價額
 ニ加フルニ前三ケ年間平均ノ表外損額一割五分三厘(第
 一表ト照ス可シ)ヲ以テシ以テ之ヲ推算スレハ本年々末
 ニ於テ本邦ノ負債タルモノハ左ノ第四表面ノ大額ニ上

第四

夫レ九年ハ	金銀ノ輸	額	三、四、三、七、四、七、九、八
其輸入	額	二、四、一、五、二、九、九、三	
貳百四十二	萬圓		
場金ト			
八錢ノ位			
輸出金			
ヲ得ス			
千五百			
輸出セ			
ナリ然			

本年輸入物品推算高	即前二年輸入平均高	同上ニ加フヘキ一割五分	三厘即前三年平均表割増高
本年輸出物品推算高	差引本年中生スヘキ負債	前年ヨリ負債高	本年々末總負債高

本年輸入物品推算高	二、九、八、七、三、三、五、五
即前二年輸入平均高	二、九、八、七、三、三、五、五
同上ニ加フヘキ一割五分	四、五、六、一、四、四、三
三厘即前三年平均表割増高	四、五、六、一、四、四、三
本年輸出物品推算高	二、四、一、五、二、九、九、三
差引本年中生スヘキ負債	一、〇、一、八、〇、五
前年ヨリ負債高	五、七、三、〇、〇、三、二
本年々末總負債高	一、五、八、四、一、八、三、七

円以上ナリ然レ
 出ノ超過額ハ九
 年十二月ノ平均相
 帯ハ九リ紙幣九十
 貴ハ之ヲ其以來ノ
 ルモノト做サ
 カラシマハ即壹
 輸出セシカ假令
 ノ負債タル可キ
 ヲシテ九年以來

ノ比例ニ由ラシメハ本年々末ノ相場ハ秀治等實ニ之ヲ
 推算スルニ忍ビサルナリ縱令本年其甚タシキニ至ラサ
 ルモ之ニ至ルハ蓋シ遠キニアリサルナリ今九年ヨリ十
 一年ニ至ルノ三年間ニ於テ金銀輸出カ金銀相場ニ何等
 ノ映響ヲ與ヘシカヲ知ラント欲セハ即左ノ第五表ニ就
 テ之ヲ見ル可シ

第五

若シ不
 ハ則テ
 民心ノ
 リ勢已
 出物品

九年	輸出金銀	一〇、六九七、七六四	十二月平均相場
	同入同	八、二七一、七二五	
	出超過	二、四二六、〇三九	金一〇〇、 銀〇九八、一八
十年	輸出金銀	九、四六八、七七〇	未
	同入同	六、一八〇、四六三	
	出超過	七、二八八、三〇七	
	前年同	二、四二六、〇三九	
	計	九、七一一、四三六	金一〇六、 銀一〇三、〇八
十一年	輸出金銀	八、四八四、六五四	推 算 ニ 副 フ カ 如 キ
	同入同	二、一八九、一〇一	
	出超過	六、二九六、五五三	
	前二年同	九、七一一、四三六	
	計	一六、〇一〇、八九九	金一三三、六 銀一一六、七〇
十二年推算負債		一五、八四一、八三七	金銀

テ遂ニ以テ
 ラサルナ
 成スルカ輸
 宜千五百

充スルニ
 現状ヲ維持
 ルヲ是望マ

夫レ我國ノ經濟ノ說モ往々外國ノ例ヲ奉テ以テ
 論據トナシ米國ハ如此白耳義ハ如形ト云々スルモノア
 リト雖モ是レ實ニ我民ヲ害シ我國ヲ亡スノ誤見ナルノミ
 何トナレハ我邦ハ數百年ノ治平ニ慣著シ外カト戰ニ其
 國威ヲ争ヒ國權ヲ擴張ナラシムヘキノ感憤ニ際スルナ
 リ又永ク國港ヲ鎖シ内外利ヲ競フテ國力ヲ富強ナラシ
 メサルヘカラサルノ困難ニモ措ラス獨リ我國アルヲ知
 テ敵國外患アルヲ知ラス自カウ安ヲ求メテ其分ニ甘ニ
 シ國ト國トノ大關係アルモノニ於テハ我國民ノ心意ニ感

ノ比例
推算ス
ルモ之
一年ニ
ノ映響
テ之ヲ

二十一年	四六六、〇〇〇 二二、一、二、八	輸出 輸入	二十一年
二十二年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十二年
二十三年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十三年
二十四年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十四年
二十五年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十五年
二十六年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十六年
二十七年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十七年
二十八年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十八年
二十九年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	二十九年
三十年	四三〇、六二四、二	輸出 輸入	三十年

可實ニ之ヲ
十ニ至ラサ
今九年ヨリ十
相場ニ何等
第五表ニ就

若シ不幸ニシテ将来ノ實況秀治等ノ推算ニ副フカ如キ
ハ則テ既ニ欲乏スルノ金銀ハ自今益欲乏シテ遂ニ以テ
民心ノ動搖ヲ醸スルニ至ルモ亦未タ知ル可カラサルナ
リ勢已ニ此ニ至ラハ輸入物品額ニ其半額ヲ減スルカ輸
出物品額ニ其額ヲ加フルカ或ハ政府別ニ九壹千五百

円ノ真貨ヲ發行ニ以テ輸入物價ノ支償ニ補充スルニ
ラスンハ焉ソ現状ヲ維持スルヲ得ニヤ既ニ現状ヲ維持
スル能ハサレハ亦何ソ既傾ノ情勢ヲ挽回スルヲ是望マ
ニヤ
夫レ我國ノ經濟ヲ説クモノ往々外國ノ例ヲ擧ケテ以テ
論據トナシ米國ハ如此白耳義ハ如形ト云々スルモノア
リト雖モ是レ實ニ我民ヲ害シ我國ヲ亡スノ誤見ナルノミ
何トナレハ我邦ハ數百年ノ治平ニ慣著シ外カト戰ニ其
國威ヲ争ヒ國權ヲ擴張ナラシムヘキノ感憤ニ際スルナ
リ又永ク國港ヲ鎖シ内外利ヲ競フテ國力ヲ富強ナラシ
メサルヘカラサルノ困難ニモ措ラス獨リ我國アルヲ知
テ敵國外患アルヲ知ラス自カウ安ヲ求メテ其分ニ甘ニ
シ國ト國ト大關係アルモノニ於テハ我國民ノ心意ニ感

深セサルモノナルカ如キ實況アリ然リ而シテ彼ノ歐米
各國ノ如キハ全ク之レニ及ミ戦乱相次キ競利常ニ止マ
ス故ニ國民ノ感覺大ニ我ニ果ナルモノアツテ其外民等
ハ常ニ利ノ有ル處ニ赴キ東奔西走飛耳張目彼是雜居シ
テ起業圖利ヨ是レ勉メ商事ノ活動機變ニ應スルノ民ナ
リ又我邦民ハ外人ト居住ヲ雜エス逸居シテ國內ニ坐シ
他ノ未ルヲ待ツモノニシテ進往貿易ヲ行フノ民ニ非ス
サルナリ其レ國勢民俗ノ同シカラハル斯クノ如クニシ
テ而シテ之ニ施スニ同一ノ治術ヲ以テセント欲ス何
思ハサルノ甚シキヤ又或ハ外書ノ所説ニ據リ彼ノ自由
若クハ「レツセ、又、フエール」(我輩ノ為ス所ニ放任セヨト
ノ意)即是佛國ノ老商輩カ行政大家コルベルト氏ノ起
業勸高ノ道如何ノ問ニ對シタルノ答語ナリ(等ノ主張)

ヲ主張スルノ論者アリ然レ氏此論者ト如キハ夫ノレ
セ、又、フエールノ語ハ何等ノ時世ニ際シ何等ノ政府ニ答
ヘタルノ語ナルヤヲ辨知セズミテ之ヲ本邦ノ今日ニ唱
フルハ亦膠柱ノ見タルヲ免カレサルモノナリ試ニ我貿
易市上ノ現状ヲ省ヨ我商人中能ク外國ニ進往シテ貿易
ノ利ヲ世界ニ競争スルモノ幾干アリヤ廣ク外國金銀及
モ物品價格ヲ詳知シ能ク客商ノ為メニ購著セラレサル
モノ幾干アリヤ其レ當世ノ情勢ヲ審カニセスレテ漫ニ
外説ニ是據ルモノハ豈迂濶論者ト謂ハサルヲ得ニヤ抑
モ我國ノ外國ト通商ヲ開ラキハ則外國ノ強迫ニ由レ
ルモノニシテ我人民ノ望ニニ出テニ非サルナリ而シ
テ爾來年々累又ル亦多シトセヌ然ラハ則我商人ノ進往
ノ氣象ニ乏シク外國ノ商況ニ通セサルモ此亦深ク異シ

ムニ足ラサルナリ今如弱斯クノ如キノ國民ヲモテ老猾
雄悍彼レカ如キノ外商ニ對セシム猶犬羊ヲシテ虎狼ニ
敵セシムカ如キノ豈政府之空視スルニ忍ビヤ
夫レ政術ハ宜シク放任主義ヲ操ル可キノナリ然レモ凡ソ
國家ヨ益シ人民ヲ利スルノ事業ニモテ人民私力ノ能ク
及フ所ニ非ラサルモノハ唯政府之ヲ為ス可キノ豈政
府之ヲ其任ニ非ラストシテ徒ニ人民ノ為ニ任セ以テ其
機ヲ誤ラシム可クヤ政府ハ當サニ民業ヲ保護ス可シ
已ニ之ヲ保護スルヤ則之ヲ勸奨輔導シ以テ其隆盛ヲ奔
圖セサル可カラス其レ民業ヲ振起シ國益ヲ増進スルハ
亦政府職任内ノ事ノミ但政府ノ事業ヲ起スヤ必ス其費
ヲ人民ニ課セサルヲ得ス故ニ若民力其費ニ勝ヘサレハ
則已マン能ク之ニ勝ユルカ如キハ則何ソ有益ノ事業ヲ

棄擲シ願ミスレテ可ナラニヤ歐米各國ノ政府トイヘ在
善ク民業ヲ翼賛スルモノ少ナレトセス況ニヤ民業未ダ
進マサルノ我國ニ於テヤ常時尚然リ況ニヤ既傾リ情
勢ヲ挽回ス可キノ今日ニ於テヤ
閣下ハ彼迂濶論者ノ説リ所ニ拘ハラス早く内國現状ヲ
不問ニ措ク可カラサルヲ察シ因襲ノ勢已ム可カラザル
ヲ視テ既ニ匡濟ノ方策ヲ施設セラルハモノ一ニシテ足
ラス是秀治等ノ欣慰ニ堪ハス微衷ヲ吐露シ以テ深慮萬
分ノ一ヲ裨補セニテヲ希フ所以ナリ凡ソ事ハ行フテ其
宜シク行フ可キノ度ニ反ハサレハ則寧口始メヨリ之ヲ
行ハサルノ勝レルニ如カズ夫世變ニ際シ救濟ノ策ヲ行
フハ猶野火ニ逢フテ之ヲ撲滅スルカ如シ若火ヲ撲テ之
ヲ滅盡スルニ反ハサレハ却テ其焰勢ヲ長セシメテ

苟モ救済ノ方策ヲ行ハント欲セハ宜シク之ヲ果決敢行
シテ罷マサルヲ期シ他ノ區々ノ事情ト紛々ノ論議トノ
為メニ決シテ沮害撼動セシムルヲ要ス可シ是秀治等
ノ最モ閣下ニ對シテ祈望スル所ナリ而シテ其方策ノ如
キハ鄙見モ亦大約閣下ノ已ニ施設シ或ハ施設セントス
ルノ條件ニ在リテ固ヨリ新說奇策アルニ非ラストイヘ
氏今之ヲ開陳シテ以テ閣下ノ參考ニ供セントス
夫レ救済ノ方策ハ之ヲ正權ニ道ニ分ツ可シ而シテ此二
道ハ固ヨリ之ヲ偏廢ス可カラサルモノトス曰ク何ヲ
正道ト謂フ曰ク正道トハ其目的ノ永遠ニ在リテ將來無
限ノ進歩ヲ期ス可キモノニテ即政府ノ常務ト為ス可
キモノヲ謂フ曰ク何ヲ權道ト謂フ曰ク權道ニ投シ變ニ
應シテ以テ專ラ現状ノ急ヲ救フニ取ルモノ即一時權宜

ノ處分ヲ謂フ但正道ハ言フニ易ク行フニ難ク權術
ハ行フテ誤ラサルノ難キノミナラス之カ言ヲ立ツルモ
亦甚々易カラス正權其名曰異ニストイヘ其主義ニ至
リテハ則曾テ異ナル莫シ唯終始之ヲ行フ可キト機變ニ
從ヒ之ヲ取捨セサル可カラサルトノ別アルヲ而シテ
其正道トナス所ハ何ソ即左ノ如シ

・常務

- 第一 政府ノ費用ヲ節ス
- 第二 收税法ヲ簡ニシテ税額ヲ輕減ス
- 第三 貨幣ヲ増發ス
- 第四 貨幣ノ基ヲ一ニス
- 第五 民産保護ノ法ヲ補足ス
- 第六 運輸通信ノ便ヲ益ス

第七 理財ノ統計ヲ詳カニス

以上七項、則國家經濟ノ常經ニシテ世人ノ善ク説ク所
タルヲ以テ今更ニ之ヲ解釋ノ喋々セ。而シテ此等ノ科
目中現ニ政府ノ實踐ニ係ルモノ無キニ非ラス其現ニ實
踐ニ係ルモノトイハレ亦尚緩慢ノ憾ナキヲ得サルヲ以
テ今一層之ヲ擴充急張セシテ希望スルナリ而シテ復
其科目ノ各件ニ就キ審按スレハ各件中特ニ之ヲ行フニ
難キノミナラス亦現今ニ在リテハ未タ急ニ之ヲ行フ可
カラサルモノナシトセ。亦邦ノ現況ハ所謂日暮道遠キ
ノ勢ナルヲ以テ若之ヲ救フニ唯常徑ニシテ是據リ他ニ
權術ヲ求メサレハ則恐ラクハ亦其効ヲ見ルニ反ハス
シテ已ニ不可救ニ至ラニテ是權術ヲ求ムルノ已ム可
カラサル所以ナリ然ラハ則今ノ計ヲ為スニ政府貯蔵ノ

真貨ヲ出シ以テ紙幣ノ交換ヲ開カシカ不可ナリ外人ニ
許スニ内地ニ於テ不動産ヲ有スルノ權ヲ以テシ以テ彼
ノ資カヲ假リ以テ内産増殖ノ途ヲ開カシカ亦不可ナリ
今夫レ政府國幣ノ真貨ヲ出シ以テ紙幣ヲ交換スルニ
ハ則其真貨ハ徒ニ外品ノ輸入ヲ促カスノ資トナリテ金
銀全ク内地ニ竭キ以テ人心ノ疑惑ヲ惹キ起スノミナラ
ス又國民ノ奢侈風更ニ長スルヲ見シニ若外人ノ作業
ヲ内地ニ許スカ如キハ則縱ニ物産ハ内地ニ増スモ其實
利ハ盡ク外人ニシテ是歸セントス故ニ此二者ハ皆策ノ
得ルモノニ非ラサルナリ然ラハ則其權術ト為ス所ハ何
ソ今之ヲ左ニ列擧セン

權策

第一 真貨銀行ノ設立ヲ促カス

但トハ何ソ人民ノ自設ヲ待ツニ暇アラサルヲ以テ政府
特法ニ據リ之レヲ誘掖補翼シテ以テ設立セシムルヲ謂
フナリ而シテ之ヲ設立スルヤ其資本中必要ノ真貨ハ現
今民間ニ存スルモノ尠ナキヲ以テ政府其所藏中ヨリ之
ヲ貸與セサル可カラス即所謂特法ナルモノハ是之ヲ謂
フナリ又已ニ設立セハ政府ハ宜シク其行為ヲ支配スル
ノ權ヲ有セサル可カラス

抑本銀行ニ望ム所ノ首要ハ何ソ外人ヲシテ内地ノ真貨
ヲ縱マ、ニ賤買シ去ルヲ得サラシメ又偶々貿易上我
ニ餘スノ洋銀アラハ内民ヲシテ徒ラニ之ヲ賤賣スルニ
至ラサラシメ又常ニ歐米各國ノ金銀市上ノ景況ニ注視
シ其機ニ應シテ宜キヲ制セシメ以テ金銀ノ増殖ヲ計リ
以テ非常ノ需用ニ備ヘ以テ内民ノ信ヲ紙幣ニ維カシム

此ニ在リテ畢竟金銀ヲ濫出セシメサルノ要術一切ヲ施
行セシメント欲スルナリ

蓋シ本銀行ニ望ム所ノ首要ハ前段ノ主義即金銀ノ更ニ
内地ニ欠乏スルヲ防禦スルノ義ニ在リテ決シテ金銀
價ノ低落ヲ今日ニ促カスニ在ラサルナリ若シ内國ノ富
實ヲ増殖スルニ至ラスシテ漫ニ金銀價ノ低落ヲ助クル
カ如キハ猶油ヲ増サスシテ燈線ヲ添フルカ如シ恐ラリ
ハ能一時ノ明ヲ致スモ終ニ暗滅シテ救フハカラサルニ
至ラシノミ夫ノ北亞合衆國ノ紙幣一十八百六十四五年
間ニ金貨百弗ニ對シ二百八十五弗ヲ要スルニ至リシハ
金銀外出シテ國內其紙幣而已ヲ存セシヲ以テナリ近年
漸次ニ回復シ去年十二月ニ至テハ則テ全ク紙幣ヲ以テ
真貨ト平換スルニ至レリ然レ氏是紙幣ノ數額前年ヨリ

モ減シタルノ故ニアラス者ヨ一千八百六十五年ニハ政
府及銀行紙幣ノ総數凡六億万ニ過キサリシニ今日ニ在
テハ則チ此兩種ノ紙幣ノ合額殆ント七億万ニ迫リト云
然ラハ則チ去年十二月ノ結果ハ只其富実増益シテ真貨ノ
入ルモノ其出ツルモノニ超過スルノ大ナルニ至レルノ
致ス所タルヤ知ル可キノミ夫レ實富増殖ノ力ニ由ラス
シテ強テ金銀價ヲ低落セシメント謀ルハ決シテ得策ニ
アラサルナリ而シテ今本銀行ニ真貨ヲ債與セントスルカ
如キハ唯其目的ヲ達セシカ為メ必要ノ方術ヲ施行スル
ニ及クヘカラサルヲ以テナリ

第二 銀貨ヲ増鑄シ及ヒ金銀ノ相場ヲ立ツル又公許シ
併セテ其取引場ノ設立ヲ許ス

金ト銀トハ明カニ是ニ二個物ナリ已ニ二個物ナレハ其需

用供給ノ度必シモ一樣平均ナラサルハ理ノ常ナリ而シテ
若シ需用若シクハ供給少シク其一方ニ偏スルアレハ則
其價ノ昂低スルハ固ヨリ壓止スヘカラサルモナリ昔
本邦金ニ富シ銀ハ外國ニ比スルハ頗ル乏シ故ニ金銀ノ
差外國ノ如クナラサレシニ貿易開ケシヨリ以來外人我
金ノ賤シキニ乘シテ之ヲ買収シ去レルヲ以テ金銀ノ價ハ
漸ク外國ト平均ヲ為スニ近ツキタリ然レ其餘弊尙未
タ全ク去ラス我人民ノ金銀價格ヲ辨スルモノ甚リ尠ナ
ク漫ニ古金銀及新金貨ヲ賤賣シテ以テ銀貨ニ換ヘ銀貨
ハ皆之ヲ要不要ノ外物ニ換フ是レ金銀今日ノ欠乏ニ至
レル所以ナリ此時ニ當リ政府若シ金貨ヲ發セハ其價更
ニ低落シテ銀貨ニ近ツキ外人隨テ之ヲ買収シ去ルヲ知
者ヲ待テ知ラザルナリ抑本邦金ヲ以テ公債ヲ發シ金ヲ

以テ紙幣ヲ發ス故ニ今遽カニ之ヲ銀ニ變スヘカラサル
ハ論ヲ俟クサレト此公債ヲ發シ此紙幣ヲ發スルノ時ニ
於テ既ニ金銀兩貨ノ發行アリ然ラハ則テ我公債主及紙
幣ヲ有スル者始メヨリ獨リ正金貨ヲ以テ其交換ヲ得ン
トヲ思料セザリシト知ルヘキナリ故ニ金貨ヲ廢スルハ
則テ為スヘカラスト虽モ同價ノ重量及容量アル銀貨ヲ
發シテ以テ之ガ交換ニ充ツルハ固ヨリ政府ノ詐偽ニア
ラス殊ニ金ノ外國ニ貴價ヲ有スルヤ未タ今日ノ如ク甚
タレキト間カス故ニ必ス銀貨ヲ用フルノ國漸ク増加
シ金鑛ニカヲ用エル者漸ク多ク加ヘ金銀ノ差亦復相
近キニ至ラニト蓋シ期シテ待ツヘキニ似タリ縱令然ラ
サルモ本邦ノ如キハ固ヨリ銀貨少ナキノ國ニシテ金之
カ為メニ其真價ヲ保持スル能ハサルノ情アルナリ豈ニ

銀貨ヲ増鑄シテ以テ此情勢ヲ濟ハサレ可クニヤ又政府
已ニ二貨ヲ發ス而シテ其相場一昂一低シテ均齊ナルヲ
得ザルハ貿易市上ノ常勢ナルヲ以テ須ラリ其相場ヲ立
ツルヲ公許ス可シ原来之ヲ抑止スルハ豈貿易ノ真理ニ
違スルモノト曰フヲ得ニヤ若シ之ヲ公許シテ不當ノ相
場アル時ハ彼ノ真貨銀行ヲ以テ常ニ内外ノ実況ヲ視察
シ以テ之ヲ賣買セシメバ則テ我人民ハ始テ金銀市上ノ真
況ヲ知ルヲ得ニ人民金銀市上ノ真況ヲ知テ而後ヲ始メ
テ金銀出入ノ事ヲ放任スルヲ得ヘキ而已秀治等故ニ以
謂ラク金銀ノ相場ハ之ヲ公許セサルヘカラスト已ニ相
場ヲ立ツルヲ許サハ亦隨テ金銀取引場ノ設立ヲ許ス可
シ唯現ニ存スルノ金銀已ニ之ニ投機者ノ所謂締ノ賣締
買ヲ為スノ患ナキヲ保シ難シ是豫メ虞ラサル可カラ

サレ所ナリ

第三 貯蓄銀行ノ設立ヲ促カス

曾テ西曆千八百四十一年中英國ノ行政大家ソル、ラボルト、ピール氏ト佛國ノ經濟大家某ト二國經濟ノ実況ヲ談話スルノ言アリ曰ク英國ニ於テハ五人中ノ一人必ス其歲入即テ一年ニ得ル所ノモノヲ費消ス他ハ其樂分ヲ餘贏ス佛蘭西ニ於テハ四十人中一人稀レニ其歲入ヲ費消シ尽スモノアリト然ラハ則佛國ニ於テハ四十人中ニ三十九人ハ歲入ノ多少ハ貯蓄スルナリ近年佛國大戦亂ノ後償金トシテ現貨五十億佛ノ大額殆ント佛國中ニ所有スル金銀貨額ニ比トシト云フヲ其敵國ニ支償セリ然レモホリ曾テ著シク其國富ヲ減セルノ跡ヲ示サ、ルモ亦宜ナラスヤ本邦ノ經濟事務タルヤ尚缺點多シト虽モ就

中貯蓄方法行ハレサルノ大ナルニ如クモノナレ是レ舊政府時代ノ慣習ヨリ因襲ニ采レルモノニシテ原米國民貧シキト徒手遊食ノ徒多キト故ニ貯蓄ニ違ヤキニ因ルト虽モ亦簡便安全ナル貯蓄銀行ノ設立ナキニ因ルモノ其多キニ居ルト曰ハサルヲ得ニヤ近來驛遞局爰ニ見アリテ貯蓄ヲ促カスノ良法ヲ行フニ由リ漸次ニ貯蓄者ノ増益ヲ見ル加旃諸銀行ノ設立アリテヨリ之ニ委託ヲ為スモノ亦頗ル多シ然レモ我人民ヲシテ大ニ貯蓄ヲ為サレナント欲セハ驛遞局ノ施法又諸銀行ノ如キ小額ヲ取扱フヲ屑トセズ且取扱フニ暇ナキモノニ對シテ之ヲ望ムヘカラザルナリ蓋ニ我國ノ通貨常ニ流通ニ乏シクシテ利子ノ貴ヲ致シ起業者ヲシテ毎ニ其資本ニ窮セシムルモノハ未タ貯金預リノ方法周備ニ至ラスシテ尚

小民各自ニ其得ル所ノ通貨ヲ死蔵スル者アルノ悶スル
處アルモ亦少ナラス又小民ノ漫ニ不急ノ外物ヲ購求
スルモ亦職トシテ其手ニ通貨ヲ死蔵スルニ之因ルナリ
夫レ工人農夫等ノ情態ヲ察スルニ其所得ノ細小ナル者
ハ以テ家ヲ築キ田ヲ買ハント欲スルモ能ハス以テ銀行
ニ托セント欲スルモ亦其額ニ満タス能ハス故ニ之ヲ囊
中ニ収メテ以テ常ニ其身ニ帶フ而シテ彼等固ヨリ家計
ニ餘リアルノ徒ニアラス故ニ遂ニ之ヲ保持スル能ハス
シテ以テ自家日常ノ便ヲ買ヒ若シクハ一時ノ快ヲ取ル
ニ過キサルノミ然レモ此輩ノ如キハ尚貯蓄ニ意アリテ
能ハサルモノナリ甚タシキニ至テハ一日勞動シテ得ル
所之ヲ一夕ノ放飲ニ付ス而メ自カラ曰リ我等生得テ運拙
ク分定レリ復家ヲ起シ田ヲ買フノ望ナシト此言ヤ固ヨ

リ取ル可キニ非スト雖モ其自棄スルノ情衷ヲ察スレバ
則亦愍諒スヘキモノアリ豈其自棄スルニ任セテ之ヲ顧
サルニ忍ヒニヤ況ニヤ自棄ノ事タル一人ニ在テハ誠ニ
小ナリト雖モ之ヲ國ノ經濟ニ問ハ、則テ甚タ大ニシテ
國民中二十歳以上ノモノ一千五百万人ト假定シ毎日平
均一人壹厘ヲ貯蓄セバ一日ノ蓄額一万五千円ノ多キヲ
致シ一年ニハ五百四十七万五千円ノ巨額ニ至ルヲヤ此
年額ハ産業以テ起ス可キナリ國家以テ富ヲ致ス可キナ
リ嗟乎彼等貧シト雖モ能ク貯蓄ノ緊急ナルヲ知ラハ則
豈ニ一日一錢乃至二三錢ヲ貯蓄スルヲ難シト為ニヤ只
其簡便安全ノ方法無キヲ憾ムルノミ既ニ方今ノ情勢ニ
依レバ則人民ハ自ラ之ヲ設立スルニ至ルハ蓋シ遠キニ
在ラサルヘシ秀治等故ニ謂ラク政府宜シク特法ヲ設ケ

其事ヲ簡便ニシ其托スル所ヲ保全スルノ例規ヲ立テ、
之レカ設立ヲ促カサルハカラスト
第四 輸出物品製産ノ増進ヲ促カス
我邦ノ經濟ヲ説クモノ往々曰ク本邦銀行ノ設立アリ郵
便電信ノ設置アリ以テ為替ノ利便ヲ増シ以テ通貨ノ融
通ヲ助クルカ為メニ方今要スル通貨ノ數ハ舊時所要ノ
半ニシテ足ルヘシ然ルニ今ヤ紙幣ノ發行却テ更ニ増進
シテ其數大ニ實際ノ所要ニ過ク是金銀海外ニ脱出シ紙
幣其價位ヲ保持スル能ハサル所以ナリト此説ヲ為スノ
徒ハ單ニ右等ノ便益ヲ増スヲ知テ而シテ我貨幣ヲ要ス
ル事件ノ増益セルヲ見サルモノナリ貨幣ノ要件ヲ増シ
タルノ實況ハ利率等已ニ之ヲ説ケリ故ニ今之ヲ畧ス且
本邦ノ物産ハ大抵細民各自ノ手ニ出ツルモノニシテ巨

資ノ會社若クハ組合等ノ手ニ出ツルモノ尠ニ而シテ為
替手形等ノ利便ハ唯都府及大市ノ問屋等ノ取扱ヲ助リ
ルニ過キス此等ノ為替法ハ旧政府ノ時代ニ於テ已ニ盛
ニニ行ハレタリシテ細民所要ノ製産資本ニ關係ヲ有セ
サルモノ、如シ故ニ現今トイハレ尚細民ノ資金即通貨
ヲ得ルニ苦シムハ曾テ旧時ト異ナルヲ見サルナリ夫レ
我國發行ノ紙幣額ハ之ヲ金銀兩貨ニ比スレハ則テ頗ル
剩過ナリト虽氏然レ氏前未説ク所ノ事情アルヲ以テ之
ヲ實際所要ノ通貨ノ額ニ比スレバ則豈ニ多シト為ニヤ
利子ノ廉ナラスニテ起業者常ニ資本紙幣ニ窮乏スルノ
情況以テ之ヲ証ス可キナリ故ニ秀治等カ所謂製産ノ増
進ヲ促カストハ他ナシ特法ヲ設ケ更ニ製産ノ資本紙幣
ヲ貸出ニ以テ其増進ヲ促カスヲ謂フナリ去年公債証書

出テ、ヨリ有金者多クハ其安全ニシテ利益ノ少ナカラ
サルヲ喜ヒ之ヲ買フテ以テ其紙幣ヲ縱散ス現ニ利益ノ
安全ヲ計ルモノハ則銀行ノ設立ヲ請願シ有利ノ公債ヲ
政府ニ預ケ以テ無利ノ紙幣ヲ受領シ更ニ之ヲ以テ有利
ノ公債ヲ買集シ袖手シテ以テ二重利ヲ収ムルモノ無シ
トセス而メ其紙幣ヲ得タルモノハ多クハ之ヲ眼前ノ細
事ニ費消シ能ク之ヲ有益ノ事業ニ供用シタルモノ甚々
稀レナリ是レ紙幣ノ増祭アルニ拘ハラス金利ノ騰貴シ
テ起業者ノ資本ニ窮乏スル所以ナリ夫レ我國ニ於テ物
産ノ増殖ヲ要スルノ急ナルハ今日ニ若ク無シ而シテ政
府發行スル所ノ公債証書ハ却テ金利ヲ騰進シ起業資本
ヲ減少セシムルノ実ヲ呈セリ今ニシテ之ヲ救フノ策ヲ
施サスレハ則政府徒ラニ我國ノ産製ヲ障害スト曰フ者

アルモ何ヲ以テ之ヲ辨ゼンヤ況ニヤ現ニ金銀ノ騰貴ハ
實ニ去年ノ公債証書ニ依テ散スル所ノ紙幣ヲ逆用セル
ニ起リタルオヤ故ニ秀治等謂テク政府ハ特法ヲ以テ銀
行ニ貸與スルノ残餘及政府ニ貯蔵スルノ紙幣ヲ以テ之
ヲ起業者ニ貸與シ以テ物産ノ増進ヲ促カサルヘカラ
ス識者或ハ曰ハニ輸出物品ニ付テハ我人民既ニ勤メリ
唯輸入ノ多キヲ以テ窘迫ヲ受クルノミ何ソ輸入ヲ防禦
スルヲ謀ラスシテ輸出ノ物品ヲ増殖セニテ務ムルヤ
ト此論固ヨリ善シ輸入ヲ防禦セニカ為メニ其品ヲ我手
ニ製造スルハ秀治等モ亦甚々希望スル所ナリ然リ而シ
テ今先キニ輸出物品ヲ増進セシメント欲スルモノハ他
ナシ其最モ易シテ且利ヲ得ルノ速ナル可キヲ知レハ
ナリ夫レ輸入物品ノ民生日用ニ急ナル者ハ外人慣熟勤

幣シテ製造スルヲ以テ其費用少クモテ其價值隨テ低シ
是ヲ以テ令遷カニ之ヲ我手ニ移サント欲スルモ恐ラク
ハ費用多クシテ能ク顔顔スル。一難ク亦容易ニ其効ヲ見
ル可ラス而シテ其不急ノ物品ノ如キハ則亦之ヲ製スル
ヲ急トセス故ニ先ツ我手及土地ニ適應スルノ物品ヲ
増殖シ之ヲ輸出シテ以テ我實買力ノ増進ヲ謀ルニ如カ
サルナリ且夫レ出ヲ増スハ進取ヲ期スルナリ又ヲ減ス
ルハ退守ノ法ナリ。縱令其奏効ノ難易如何ヲ論ゼサルモ
退守ハ則進取ノ利ノ大ナルニ如カサルヘシ蓋シ入ヲ防
クノ目的ハ買ハサルニ止マリテ。實買力ノ増スヲ期スル
ニ非レバナリ且今若シ假ニ一千万ノ紙幣ヲ貸出シ之ニ
用リテ以テ一千万ノ輸出品ヲ製出スルヲ得ハ其一千万
ノ輸出品ハ即我國ニ一千万ノ金銀即實買力ヲ引クモノ

タルカ故ニ畢竟紙幣ノ増額ハ其旧額九億四千六百万
円ニ比スレハ僅カニ十四分ノ一ニ足ラスシテ而シテ金
銀ハ其現在ノ有數凡五千萬円ニ二割ヲ加フルノ數十
り今起業資本為メニ紙幣ヲ貸出シ旁ラ夫ノ真貨銀行ノ
能カヲ假リ其時々僅ニ増スノ金銀ヲ以テ不急ノ外物ヲ
買フノ資ト為サシメス然ラハ則チ金銀紙幣ノ差ハ自カ
ラ暫ク輸入防禦ノ効用ヲ為シ兩者相待テ稍ヤリ富實ヲ
致スノ基ヲ起スヲ得ヘキナリ今此ニ論ズル所ハ唯其事
ノ難易効ノ遲速ヲ計ツテ以テ云爾スルノミ夫ノ輸入品
ノ製造ヲ我手ニ移シ營ニ内民ノ需用ニ供給スルノミナ
ラズ大ニ東洋及其他ニ輸送セントスル企望ノ如キハ亦
宜ニ之ヲ不急ト謂ハニヤ唯目前ノ情況輸出ノ増進ヲ促
カスヲ以テ最先ノ務ト為スノミ

第五 商人外國ニ進往スルヲ促カス

附試賣ヲ廣ク且往來ノ國ヲ探ム

本項ハ第四項ト相待ツテ離ルヘカラサルモノナリ我高
品ノ多出ヲ望マハ内商進往シテ以テ其辛苦ヲ親掌セサ
ルヲ得ス何リ客商ノ來航携歸スルニ委スルヲ得ニ抑我
ガ製産ノ未タ輸出ヲ多クセザルハ前未論ズル所ノ障碍
アルニ由ルト魚モ亦外人多ク其種類性質ヲ知ラサルニ
基ツカズニバアラサルナリ昨年佛國博覽會ノ如キハ歲
月尚淺クシテ未タ其結果ヲ知ルヲ得スト魚モ去九年米
國博覽會及佐藤百太郎起立工商會社及福井信等ノ出店
以來我高品ノ外出スルモノ逐次其種類ヲ増シタルハ即
チ其証ニ非ズ然レモ百太郎ハ微力ナリ工商會社モ亦未
タ骨董高ノ類ヲ免レス福井信ハ只我内商ノ僅々輸送ヲ
待ツノミ又博覽會ノ如キモ出品者ノ志望未タ其利益ヲ遠

大ニ期セス全ク該會ノ真利源ヲ擴張スル氣力ニ乏シク
皆是レ不充ナルモノナリ而カモ尚多少ノ効アリ而シ
テ我製産物品ノ外國ニ售ラルヘクシテ未タ外出ノ道開
ケサルモノ鮮少ナラザルナリ今若我高ノ外國ニ進往ス
ルヲ促カシテ以テ之ガ道ヲ開カバ則輸出ノ多キヲ加フ
ルハ期シテ疎ツ可キナリ秀治等故ニ謂ク政府特法ヲ以
テ之ヲ促カス可シト

又本邦人が所謂試賣ナル者ハ能ク試賣ト稱スルニ足ル
者ナシ蓋シ其送クル所ノ物最少ニシテ常ニ兎戲ニ類シ
僅カニ一二商人ノ品評意見ヲ問フ可クシテ以テ實際ノ
市況ヲ試ニ需用ノ有無ヲ探ルニ足ラス夫レ商業ノ進前
ハ治國經濟ノ要事ナリ豈兎戲ヲ以テ庶幾スヘキ所ナラ
シヤ然レモ我高民親カラ兎戲視シテ以テ然ルニアラス

其力未タ足ラサルヲ以テナリ此レ亦助ケサルヲ得サル
所以ナリ
又本邦ノ外交ヲ開キシハ外國ニ要迫セラレテ止ムヲ得
サルニ出テタルモノニ出テ自カラ之ヲ求メタルニアラ
サルナリ故ニ其貿易上敵トスル所ノモノハ世界中最モ
開進シタルノ國ノミナルヲ以テ常ニ彼レカ製工物ヲ我
ニ入レ我生物ヲ彼レニ輸スルヲ例トス而シテ我カ出ス
所ノ物質ハ其價卑シト雖モ其実タルヤ貴シ我ニ入ル所
ノ外物ハ之ニ反シテ其實賤ナリト雖モ之ヲ製作シタル
カ為メニ價ノ大ニ加ハル者居多ナリ是レ固ヨリ經濟ノ
術ヲ得ル者ニ非ルナリ宜シク今廣ク我製物ノ短路ヲ我
ト開進ノ度ヲ近似スルノ國ニ求メ其生物ヲ買収シテ以
テ我工手ヲ養ハサルヘカラス蓋シ開明ノ國ハ常ニ製物

賤シクシテ生物貴シ未開ノ國ハ之ニ反シ生物賤シクシ
テ製物貴シ故ニ賤處ニ之ヲ買収シテ貴處ニ之ヲ出賣シ
以テ多少ノ工費及利益ヲ其際ニ占得スルニアラサレハ
貿易ノ進前ハ決シテ期スヘカラサルナリ

第六 公債証書ノ額ヲ減ス

公債証書ノ額ヲ減スルハ即チ公債ヲ減セサルヘカラサ
ルカ如シ然レモ公債ヲ減セサルモ其証書ハ則チ之ヲ減ズ
ルヲ得可キナリ蓋シ今民間ニ於テ少シク資金ヲ有スル
者ハ概チ以テ公債証書ヲ買収シ安逸ニシテ收益ノ確實
ナルヲ之レ求ム亦之レ人情ノ止ヲ得サルモノニシテ
彼ノ生産貿易ノ業ノ如キハ艱難骨ヲ削リ危嶮萬仞ノ谷
ニ臨ムカ如キノ止ニ非サレハナリ爰ヲ以テ國益隆盛ノ
事業ハ彌益衰替ニ赴ク是ニ由リ之ヲ觀レハ凡ソ内産ヲ

妨ケ外産ヲ引キ毒ヲ我國ニ為スモノ當時公債証書ヨリ甚
シキハナシ今ヤ世上ニ於テ我人民ヲシテ外資ヲ借入テ
シム可シト云ヒ或ハ外人ヲシテ内地ニ興業セシム可シ
ト云フノ説ヲ為スモノアルニ至レルハ畢竟起業資金ノ
優カナラサルカ為メニ非スヤ而シテ其優カナラサルハ
ルモノハ則公債証書發行ノ多キニ是因ラサルヲ得ンヤ
今此巨害ヲ所止スルノ法ヲ講セシテ而シテ事業ノ興
起スルヲ待ツ秀治等竊ニ百年河清ヲ待ツノ歎ナキ能ハ
サルナリ然レ氏政府ノ公債ヲ起スヤ亦已ニ止ヲ得ザル
ニ出ツ今遽ニ之ヲ減セント欲スト雖モ亦得ヘカラス故
ニ權宜ノ策ヲ施シテ以テ其弊ヲ濟ハサル可カザルナ
リ然ラハ則其策何如秀治等謂ラク他ニ良策無シ唯前未
謂フ所ノ特法ヲ以テ事業ヲ起サシムル所ノ人ニ由テ之

ヲ行ハシムルノミ夫レ特法ヲ以テ事業ヲ促カスニ當テ
ハ其人ヲ得ルノ首要ナレハ必スシモ資カヲ有スルモノ
ヲ待ツニ違アラスト雖モ其人ノ如キハ政府之ヲ撰擇ス
ルノ特權ヲ有シ之ヲシテ公債証書ヲ抵当トシテ政府ニ
納メレメ政府之ニ借スニ紙幣若クハ真貨ヲ以テシ或ハ
公債証書ヲ政府ニ収買セハ可ナリ而シテ政府但カサハ
ルヘカラサレノ事業ハ蓋シ三千万乃至五千万ノ資ヲ要
スヘシ然ラハ則其三千万乃至五千万ノ公債証書ハ民間
ヨリ政府ノ庫中ニ還歸スルヲ得可キナリ夫レ紙幣ト公
債証書トハ其體制異ナリト雖モ政府ヨリ之ヲ視レバ則
同シク是レ公債ナリ而シテ民間ニ在テ之ヲ利用セバ則
チ以テ物産ヲ興スノ資トナリ有資者ヲシテ安逸収利ノ
勢カヲ減セシメ各實業ニ勉勵シ全國ノ貧富ニ閉スルノ

実況ヲ親知セシム其利害ノ異ナル亦大ナラスヤ説者或
ハ曰ハニ紙幣更ニ増益セハ金銀更ニ騰貴セニ是レ芳ヲ
求メテ臭ヲ得ルナリ豈策ノ得タルモノナラニヤト若シ
之ヲ発シテ其用途ヲ問ハサレハ則テ或ハ説者ノ言ノ如
クナラニ然レ氏之ヲ輸出物産増殖ノ途ニ用ヒ又更ニ特
法ヲ設ケテ其宜シキヲ制セバ則テ外物輸入ヲ促進スルノ
資タラサラシムルヲ得ヘシ夫レ斯クノ如クナレハ則テ庶
幾クハ内産漸ク増シテ輸出能ク輸入ヲ支ヘ我民力モ亦
漸ク更張シテ以テ富國ノ基立ツヲ得ニ乎而シテ民力人
知漸ク進ムニ随テ改術モ亦漸ク放任主義ニ復スルヲ得
ハ則テ民始メテ真成ノ自由ヲ得ルニ至ルヘシ是レ大伸
ヲ欲ルモノハ先ツ屈スルノ道ナリ秀治等故ニ謂ラク公
債証書ノ額ヲ減セサルヘカラスト

第七 関税ヲ課スルニ保護主義ヲ以テス

此事ハ政府既ニ定見アリ故ニ論セス

第八 豫備金

夫レ迫ラレテ而シテ後之レニ憂スルヲ方ヲ未ムレハ則
欠策多シ其欠遺ナキヲ望ムハ豫メ備フルヨリ要ナルハ
莫シ秀治等前ニ已ニ將來ノ景況ヲ推論シ其甚ク憂フヘ
ギ者ヲ述ヘ而シテ之ニ續キ議スル所ノ諸項ハ首トシテ
之ヲ防禦シ之ヲ救済スルノ謀ルニ外ナラサルナリ故
ニ更ニ進デ豫備ノ法ヲ陳セントス抑モ利ハ望ム所ニ外
レ害ハ不虞ニ出ルハ人世ノ常患ナリ故ニ前陳諸策ヲ施
スモ未タ其効ヲ奏スルニ反ハズシテ而シテ彼弊害早已
ニ勝フ可カラサルニ至ルヲ保シ難シ弊害已ニ勝フ可カ
ラサルニ至テハ則之ヲ救ハント欲シテ施ス所無ク噬臍

ノ悔ヲ為スモ亦何ゾ及バン豈寒心セサル可ケンハ是レ
秀治等ガ以テ豫備法ノ己ム可カラズト為ス所以ナリ蓋
シ本邦近年幸ニ凶歉ナシト雖モ永ク豊熟ノ幸ヲ得レハ
必ス又之ニ及スルノ凶歉アルヲ慮ラサルヘカラス今若
シ不幸ニシテ凶歉ニ遇フ明治二三年ノ如クナラシメハ
我國ノ貧シキ外米ヲ仰カント欲シテ得ヘカラズ且我頼
テ以テ貿易ヲ為ス所ノモノハ僅ニ生糸及茶等ノ兩三品
ニ止ルノミ然ルニ此等ノ品物ハ總テ天候ノカヲ待ツ者
ニシテ天候若シ不順ナレハ人カヲ以テ之ヲ助クルヲ得
ヘカラス而シテ我人民多ク連年天候ノ順ナルニ狎レ漸
ク驕侈ニ流シ復タ不虞ニ備フルノ計ナシ之ニ如フルニ
金銀ノ我國ニ欠乏スル既ニ前篇ニ述フルカ如ク政府斯
ノ無謀ノ民人ヲ牧スルヤ豈為メニ一歳ノ凶饑其他ノ不

虞ニ備フルノ資ヲ蓄ヘザルヲ得ニヤ故ニ秀治等ハ敢テ
言フニ忍ヒズト雖モ試ミニ其法ヲ陳セシ即チ
萬乃至
ノ公債ヲ起スニ在ルナリ夫レ公債ノ事ヲ
ル之ヲ募ルニ易クシテ之ヲ償却スルノ難キハ固ヨリ論
ヲ待タス殊ニ近年來政府百方其力ヲ盡シ之レカ償却ノ
事ヲ勤ムルノ時ナルヲ以テ秀治等實ニ之ヲ言フニ忍ヒ
サル所ナリト雖モ今之ヲ捨テ、銳意ニカヲ鑛山ニ用ヒ
ニ歎是レ實ニ希望ス可キノ業ニシテ銳意ナラサル可カ
ラスト雖モ到底數年ノ後ニアラテハ其効ヲ見ルヲ得ス
然ラハ則チ之ヲ内國ノ富民ニ謀リニ歟内國ノ金銀ニ乏
シハ實況ハ既ニ前ニ陳スルカ如シ故秀治等謂ラリ宜シ
ク時機ヲ視テ公債ヲ外國ニ募ルニ如カサル可シト此公
債ヲ募リテ而シテ幸ニ若シ凶歲ナク且稍ク我實力ノ増

加スルニ至ラハ其憂分、如キハ爰ニ贅言ヲ要ス。萬一不幸ニシテ之ヲ支用ヤナル可カラサル、時運ニ際セハ我國ノ責任ハ為メニ太重。加フト雖氏尚急ニ臨ニテ周章シ不當ノ否利ヲ釀生スルノ大不幸ヲ免カル、ヲ得可シ是レ或ハ眼前ニ要セザルヲ以テ不急ニ属スト為ス者有ル可シト虽モ秀治等ニ在テハ則チ今日ノ最モ切要ト為ス所ナリ古人言アリ凡ソ事豫シメスレハ則チ立ツ豫シメセサレハ則チ廢スト

以上八項ノ條件ハ之ヲ今日ノ權宜ノ策トス而メ之ヲ權宜ト為スハ終始之ニ依ルヘカラスシテ國民ノ進況ニ從ヒ機ヲ視テ變ニ應シ取捨セサルヘカラサルヲ以テナリ且右八件ハ專ラ已崩ノ諸弊ヲ救濟センカ為メナルヲ以テ政府自カラ民業ニ干渉セサルヲ得サルモノ多クシテ

皆自然ヲ待ツモノニアラス故ニ其人ヲ得テ其機ヲ誤ラサレハ則チ其奏効速カナルヘシト雖モ若シ其一步ヲ過マラハ則チ其弊害ヲ為スモ亦大ナリ。嗚嗚政府能其國勢ヲ既傾ニ挽回スルト人民ノ怨府ト為ルトハ唯主筆者ノ英斷敢行能ク誤マラザルト否トニ在リ而メ夫ノ常經ヲ是レ視テ機變ニ應スルノ慧眼ヲ具セサル者ヲシテ之ヲ聞カシメハ則チ以テ危道ト為シ政府ノ當ニ為スヘカラサレモノト謂ハシテ必セリ故ニ縱令英明果敢能ク之ヲ執行シ其実効ヲ奏スルニ無ナントスルニ至ルモ亦世論ノ遮障ナキヲ保シ難シ況ニヤ賤陋秀治等カ如キノ言フ所也。ルオヤ伏テ乞フ閣下深ク之ヲ察セラレニテ彼洋銀ノ我開港場ニ跋扈シテ我交易ヲ媒介シ而シテ我貨幣能ク之ト頡頏スルヲ無クシテ我商賈常ニ其價格ノ昂低

ノ為メニ不便ヲ受クルノミナラズ大ニ損害ヲ被ルルア
ルガ如キハ則我交易ニ障礙ヲ為ス一固ヨリ大ニモテ苟
モ然ク之ヲ排除スルノ策ヲテバ則採テ行フ可シト雖モ
情ヲ其情勢ヲ察シ其然ル所以ノ源ヲ求ムルニ要皆我貿
易上ノ実カホク振張セザルニ由ラザル莫キナリ若シ我
貿易上ノ実カ増進シ輸出物品漸ク多キヲ加ヘ金銀貨幣
ニ富ムニ至レバ則此弊自ラ止ムヲ得可キナリ然ルニ世
上或ハ洋銀排除ノ説ヲ唱フル者アリ曰ク洋銀ハ相場ノ
昂低甚シクシテ外人モ亦之ヲ不便トス今ニシテ我銀貨
ニ改鑄シ其勢カニ依テ之ヲ排除スルニ非レバ則到底其
患害ヲ免ルノ期ナシト然レドモ洋銀ハ上海香港等東
洋ノ諸港ニ流通スル者ニシテ其額固ヨリ夥多ト為ス而
シテ我諸港ニ在ル者ノ如キハ其一小部分ニ過キザルノ

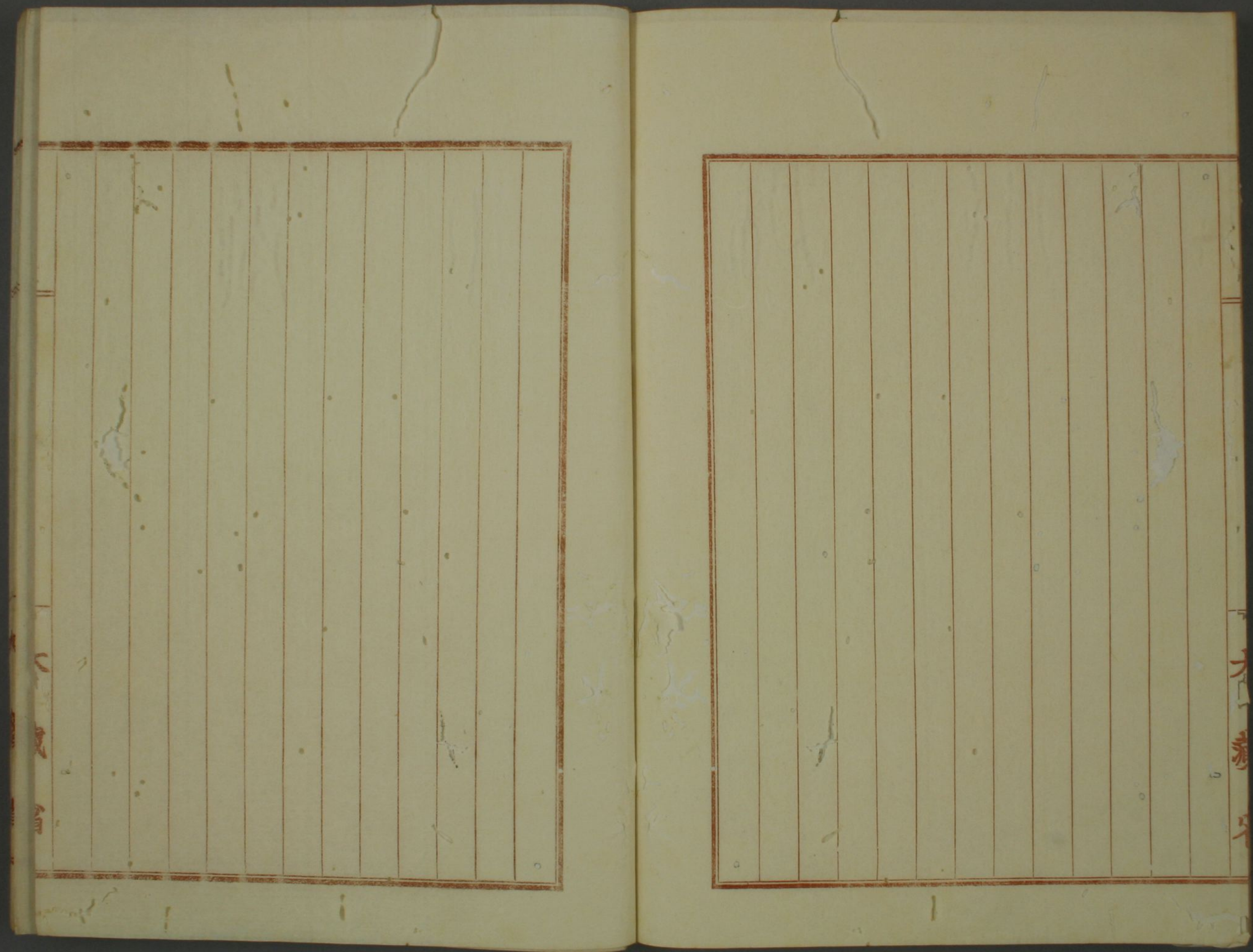
ニ故ニ我貿易上ノ實カ増進スルニ非ザル以上ハ則隨テ
改鑄スレバ隨テ輸出ニ到底之ヲ尽スノ期無カル可シ故
ニ貿易ノ実カヲ増進スルノヲ講セズシテ區々洋銀排除
ノ説ヲ唱フルハ抑末ナルノミ或ハ曰ク我條約貿易ニ各
國ノ貨幣ヲ用フルノヲ許ス故ニ洋銀ノ流用自ラ盛ヲ致
ス宜シク其條約ヲ改正シ且正貨條例ヲ立テ、以テ此弊
ヲ救フ可シト此レ亦實際ヲ知ラザルノ論ナリ夫レ我邦
金銀貨幣ニ乏シキハ未タ今日ヨリ甚シキハ有ラズ然レ
バ則我金銀貨幣ヲ以テ外國交易ノ正貨ト為スノ制ヲ立ツ
ルモ到底其實行ヲ望ム可カラザルナリ故ニ洋銀ヲ排除セン
ト欲セバ則我貿易ノ実カヲ養フヨリ急ナルハ莫キナリ
是レ秀治等ガ喋々實カノ増進ヲ論シ敢テ權宜ノ策
ヲ建ツルト雖モ洋銀排除ノ事ニ論及セザル所以ナリ抑

權宜ナルモノハ身ヲ以テ國ニ膺ルノ精神ヲ振テ英斷果
行百折撓マスレテ始メ以テ其奏効ヲ望ムヘキナリ若
區々ノ論議ノ為メニ阻却セテ其機ヲ見テ投スル能ハ
ス其人ヲ得テ任スル能ハス徒ラニ瑣々見戯ニ類スルノ
行為ヲ以テスルカ如キハ及令微効ヲ呈スルアルモ何ソ
能ク此大勢ニ輕重ヲ加エンヤ況ニヤ帝ニ其奏効ヲ望ム
ヘカテサルノミナラス却テ將サニ其弊ニ勝正サラント
スルオヤ噫秀治等ヤ謫劣敢テ我國經濟ノ方策ヲ盡スト
曰フニ非ズ然レドモ方今ノ情勢ヲ視テ慨歎已ム能ハズ
敢テ濫リニ尊嚴ヲ冒シ言難キ所ノモノヲ言フ僭越ノ罪
固ヨリ辞セザル所ナリ唯秀治等意切ニシテ從カハス
閣下若シ秀治等が衷情ヲ諒察シテ之ヲ採擇セハ何ノ幸
カ爲ニ加ヘン謹具ス

明治十二年七月五日

河瀬秀治

大隈重信殿



Blank page with faint vertical lines and a red seal at the bottom right.



Blank page with vertical red lines forming a grid and a red seal at the bottom right.

Vertical red text on the right edge of the right page.

114
980
2

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

我金貨銀貨及紙幣ハ共ニ本邦ヲ通貨ニシテ法律ニ於テ
皆同位ノモノナリ又各港ニ於テ用フル洋銀ハ其精粗重
量我銀貨ト甚々相近シ然レモ之ヲ取引上ノ實際ニ徴ス
ルニ毎ニ交互多少ノ差ヲ生スル所以ノモノハ何ソヤ他
トシ是レ元其物各自ニ其實ヲ殊ニシ又縱令同物ナルモ
各自其用ヲ殊ニマルヲ以テナル然レモ我通貨上差ヲ生
スルト述今ノ如キハ其例未タ曾テアラサル所ナリ(貨制
一定以前即チ旧政府時代金銀各貨其容量及重量トモ齊
均ナラサリシモノ及旧藩ノ諸札、如キハ格外トス)今明
治八年一月ヨリ述今ニ至ルノ相場ヲ見ルニ左ノ如シ

第一表

・横濱金銀貨及洋銀相場月表

大藏省

夫レ右ノ如キ大差ヲ生スルモノ必ス其原因ナカルヘカ
 ラス而メ其真因ヲ究メサレハ校正ノ法方必ス其宜ヲ得
 ヘカラサルナリ然レモ其原因ナルモノ必シモ一ニ出テ
 ス或ハ數少因相依テ一大變動ヲ起シ或ハ一大因特立シ
 テ他ノ小數因ヲ壓倒セルモノアリ又正因アリ誤因アリ
 到底之ヲ一意断定スルヲ得ヘキニアラス真因ヲ究ムルハ
 豈夫レ容易ノ業ナランヤ然レモ貨幣ノ事ハ毎ニ算數ニ
 在リ算ヲ推シ數ヲ究ムレハ其因豈復發見スヘカラサル
 ノ理アラシヤ而メ余輩ハ第二表ヲ得テ其一因ヲ發見ス
 ルヲ得タリ仍テ之ヲ分疏スル左ノ如シ

第二表 乙甲表

甲倫敦銀相庭月表

乙倫敦照準及橫濱實際銀貨相庭比較表

諛表ニ於テハ首トシテ我金貨力銀貨ニ對シテ一層騰貴
 セル所以ノモノ及我金貨然カ多銀貨ヨリ高シト雖モ外
 人尚之ヲ望テ輸出スル所以ノモノヲ見ルヘシ甲表ハ則
 テ倫敦ニ於テ銀十九百二壹才ニス即チ四百八ニ付英金壹
ノ金貨ハ九百十六半位何程ト云フノ實際相場ナリ乙表
ニ付十三ダレイニ七ハ即チ右倫動相場ニ照準セハ我銀貨壹圓九百位四百十
ニ付テハ我金貨壹圓金貨ハ九百何程ニ當ルヤヲ示スモノ
 ナリ蓋シ夫物價ハ其物ノ需用供給ノ多寡何如ニ依テ起
 ルモノナレハ因ヨリ之ヲシテ各地平等一様ナラシムル
 ヲ得ヘキニアラスト雖モ若シ試ニ我市上ニ於テ白銀
 ト金貨トノ相庭ヲ為ス丁倫敦相場ノ如クナラシムルハ則
 我銀貨ハ乙表黒線ノ示ス處ノ如キ取引ヲ為サ、ルヘカ
 云サルナリ然ルニ我市上ハ實際斯ノ如クナラス即乙表

ノ朱線ヲ見ルヘシ夫レ朱線ト黒線トノ差違此ノ如シ外商ノ
金貨ヲ好ム甚々シキモ亦宜ナラスヤ故ニ外商カ我金貨
ヲ輸出スルヤ獨リ彼レカ輸入品ノ代銀ニ換ヘテ以テ之
ヲ出スノモナラス金貨ヲ看テ以テ之ヲ一テノ商品ト働
シ苟モ眼ニ觸ルレハ則チ之ヲ買収シ去レルノ勢ナリキ
而シテ古金銀貨ノ如キハ時々ノ取引ノ實況ヲ詳ニスル能
ハスト莫クモ要スルニ亦此論理ニ外ナラサリシヲ信マル
ナリ然レモ勢此ニ至ルヲ以テ我金貨ハ自然欠乏ス可キ
ノ數ナルカ故ニ市況ハ益々騰貴シテ止マズ爰ニ於テ我
人民モ亦漸ヤテ金貨ノ貴重スヘキヲ感覺シ都鄙舉ケテ
之ヲ藏蓄スルノ念ヲ起シ復々漫ニ市上ニ輸送スルモノ
ナキニ至レリ即チ本年二月三月ニ至リ金貨市上ニ欠乏
スルニ臨ミ其價終ニ大升ニ進騰シ其銀貨及洋銀ト相距

ルノ度殆ント全ク倫動相庭ニ相近ツキタルハ以テ其證
ト為スニ足ラン但本邦金貨銀貨トノ差ハ常ニ倫動ト之
ヲ同フセサルモノ其原因ナキニアラス第一東洋諸國ハ
概スルニ銀貨ヲ以テ貿易ノ媒介ト為スカ故ニ銀貨ノ運
用ハ勢ヒ金貨ノ運用ニ過ク而シテ凡ソ運用ノ度繁ナル
モノハ其價必マ其緩ナルモノヨリモ貴カラサルヲ得ル
ルハ亦自然ノ理ナレハナリ第二本邦ノ輸入物品代價ノ
惣額ハ常ニ輸出品代價ノ惣額ニ超過ス故ニ年々外商
ニ拂出スルモノキノ負債アリテ請取ルヘキノ入額ナシ而シ
テ其拂出スルヤ洋銀ヲ得ルニ由テ勢ヒ止ヲ得スシテ之
ニ當ツルニ稀レニ有ル所ノ金貨ヲ以テセサルベカラス
然リ而シテ其金貨ノ價ハ彼レカ取ル所ヲ以テ之カ度ト
為シ我賣者ハ常ニ彼ノ買者ニ制セラル又彼レカ之ヲ買

フヤ必ス之ヲ倫動若クハ其他ニ輸送スルノ計算ヲ為ス
 之ヲ倫敦ニ送ランカ概テ其必須ノ費用(縦令別段ニ利益
 ハ見込マサルモ)ヲ算スルニ運賃凡千分ノ十保險料凡千
 分ノ九利子ニケ月凡千分ノ十合ヤテ千分ノ二十九ヲ要
 スヘシ且右計算ハ大額ノ貨幣ヲ輸送スルノ割合ナレハ
 小額ニハ更ニ一層費用ノ増額ヲ見込ミテ以テ買取ラサ
 ルヲ得ス故ニ其高況ノ乙表カ示ス所ノ如クナラサルモ
 亦其理ヲキニアラサルナリ然レハ本邦金銀兩貨間ノ実
 際ノ差ヲ倫動銀相場ニ比較スルニ我銀ノ高クシテ金ノ
 賤シキト當ニ右計算費額ノ差ノミナラス其買者ニ厚利
 アル知ル可シ是レ外商人ノ好ラ之ヲ買送ヤシ所以ナリ
 故ニ前論ヲ概スルニ本邦ノ金貨競テ輸出セラレタル所
 以ノ大因ハ他ヲシ輸入ノ超過ヤシト且本邦人民黄金ノ

真價(倫動)ノ相場ヲ指ス諛地ハ世界最第一ノ金銀市タル
 ヲ以テナリヲ識認ヤサリシトニ依ルナリ或ハ曰ク金貨
 ヲ輸出スルハ銀貨ヲ輸出スルヨリ便利ナルカ故ニ金貨
 ノ輸出ハ勢々銀貨ヨリ多カラサルヲ得サルナリト夫レ
 或ハ然ラニ然レハ此等ノ論理ニ至リテハ淺述ニシテ以
 テ一原因トナスニ足ラス但以上ハ特ニ金貨カ銀貨ニ對
 スルノ差ニ就テ之ヲ論スル而已若シ夫レ紙幣ノ銀貨ニ
 對スルノ差ノ如キニ至ラハ其原因自カラ殊ナル所ナカ
 ルヘカラク余輩ハ左ノ第三第四第五第六第七及第八表
 ヲ以テ之ヲ覈見スルヲ得タリ

第三表

輸出入物品比較表

第四表

・輸出入金銀比較表

第五表

輸出入物品及金銀比較表

第六表

橫濱為換相場表

(倫敦銀行六月渡)

第七表

輸出入金銀明細比較表

第八表

橫濱洋銀取引所相場及賣買高表

明治八年 先ッ第三表ニ就テ視ルニ本年中始メ七月
ニシテ輸入カ輸出ニ超過スルモノ凡九百餘万圓アリ又
九月十月及十二月ニ於テモ亦輸入ノ超過ヲ致シ終ニ全
年ノ輸入ノ超過凡一千百三十餘万圓ニ至レリ明治三年

本邦歳総ラスシテ大ニ外米ヲ輸入セシニ因ルノ大超過
ヲ除ク外維新以來未ダ曾テ斯年ヨリ甚シキモノアラ
サルナリ茲ニ第一表ニ就テ當年ノ市況ヲ按スルニ我各
港ノ洋銀相場ハ始メ七月ノ間平均凡四錢餘昂騰セル
モノハ即チ此輸入ノ超過ニ因レルヲ明カナリ然レモ其
輸入超過ノ額ニ照セハ洋銀相場ノ昂騰尚少キ所以ノモ
ノ及第六表ナル同時ノ為替相場ヲ第二表ノ倫敦銀相場
ニ比較スルニ却テ高位ヲ占ムル所以ハ他ナシ倫敦ノ銀
貨(金ニ對スルモノ)相應ニ高キ下且我ヨリ拂出ス所ノ負
債ニ充ツヘキ我金銀貨(即外高カ看テ高品ト働スモノ)ノ
尚我國民ノ手中ニ多ク存セシヲ以テ外人ハ競テ之ヲ求
メタルトニ由リテナリ依テ八九十及十一月ノ如ク輸出
高稍輸入ニ近キニ至レハ歐洲ノ銀貨ハ復々著シク昂騰

ニ向フト虽氏横濱市上ノ洋銀ハ却テ漸々低下ノ色ヲ著
ハセリ是レ首トシテ我國民ノ手ニ尚其輸入物代ニ拂出
スヘギノ金銀貨幣アリシニ帰セサルヲ得ンヤ而シテ第
表及ヒ第ニ表ハ自ラ其實跡ヲ證明セリ明治五年我各稅
関ニ於テ出入貨幣類ノ記帳ヲ始メタルヨリ以降明治七
年及当年ノ如キ大額ノ金銀輸出セシメテ未タ之アラズ
明治九年 本年ハ貿易上ニ非常ノ變休ヲ著ハセルノ年
ナリ第一歐洲銀貨ノ大下落第ニ歐洲生糸ノ不作是ナリ
之ニ加ルニ前年輸入ノ超過甚シカリシカ為メニ我市上
ニハ外品尚存シテ充滿シ当年上半季ニ在リテハ輸入ヲ
要スル丁至ラ輕シ又当年上半季ハ物品ノ輸出ハ甚々少
シト虽氏貨幣ノ輸出ニ至ツテハ頗ル多シ此ヲ以テ洋銀
我商人之手ニ多カラサルヲ得ナルカ為メ理当サニ大ニ

洋銀ノ下落ヲ生マヘキナリ然レ氏之ヲ實際ニ問フニ大
ニ斯理ニ及シ(第一表ヲ見ルヘシ)一月二月ノ間ハ洋銀ノ
相庭却テ金貨ヨリモニ錢前後ノ高位ニ在リ而シテ我金貨
ノ價ニ少シク騰上ノ色ヲ呈セシハ四月歐洲銀貨下落ヲ
電信到着シ横濱ノ倫敦為替相場頗ル非常ノ下落ヲ示セ
ルノ時ニ在リキ又当年歐洲銀貨下落ノ極ハ實ニ七月中
ニ在リ又歐洲生糸不作ノ為メニ我生糸ノ騰貴及大輸出
アリシモ同シク七月ヨリ起レリ故ニ歐洲銀貨下落ノ為
メニ春未洋銀及本邦ニ輸入セシモノ少ナカラサルト及
生糸ノ輸出ノ為メニ本邦ニ秋初ヨリ輸入セシ銀塊及ヒ
洋銀夥多ナリシトハ論理ニ於テモ又實際ニ於テモ我貨
幣市上ニ必ス大差ヲ生セシメサルハカラサルモノナリ
然レ氏此機ニ際シ我金貨下洋銀下ノ差ハ亦僅カニ四五

錢ニ過カリキ而ノ爾後八月九月及十月更ニ大ニ洋銀ヲ
輸入シタルニ際ニ洋銀ハ偶壹帀ニ付其價我紙幣凡九十
四五錢迄ニ下落セリト虽氏何ソ圖ラン我全價モ亦從テ
下落シ紙幣ト平均スルニ至リ到底金銀ノ差ハ四五錢ヨ
リ乃至六錢ノ間ニ止マレリ夫当年初ヨリ九月十月ニ至
ルノ昂値ハ恰モ定數ニ反スルノ状アリテ頗ル怪シムヘ
キモノ、如シトイヘ氏之ヲ第六表ニ照セハ則チ怪シム
ニ足ラサルナリ他ナシ當時外商ハ生糸買込ノ為ニ洋銀
其手ニ乏シク歐洲銀價ノ低落ヲ顧慮スルニ暇ナクシテ
之ヲ貴買セシト在日本ノ西洋諸銀行之レカ為メニ其為
替相場ヲ引上ケシヲ我高民ハ金銀ノ真價ヲ知ラスシテ
單ヘニ右銀行ノ相場ニ準據シ蕪然トシテ更ニ思慮スル
所ナカリシトトニ者其實因タリシ事明カナリ故ニ其十

一月及十二月ニ至リ歐洲ノ銀貨頗ル回復シ且支那為替
相庭ノ大ニ騰貴セルニ及ニテハ我市上ノ洋銀モ亦漸次
ニ回復シ翌年一月二月ニ至リテハ早既ニ金貨却テ洋銀
ノ下ニ位マルニ至リ以テ当年ノ局ヲ結ヘリ當時我高民
若シ己ニ金銀兩貨ノ真價ヲ識認セハ紙幣ハ銀貨ト共ニ
一定ノ位地ヲ占メ洋銀ハ其下ニ立テ金貨ハ其上ニ位シ
上下分明ニシテ肯テ外人ノ為メニ瞞着セラレカリシナ
ルヘシ

明治十年・本年ハ糸價尚前年ノ餘響ヲ存セリ故ニ其上
半季ノ輸出物品ノ價額ハ微ナリト虽氏亦前年同時ノ輸
出ヨリモ減少セシト謂フニアラス然レ氏我小民ハ昨年
未輸出ノ超過ニ依テ多少ノ買カヲ得タルヲ以テ当年ニ
至テハ彼等カ外物ノ購求頗ル増進シ之ニ加フルニ当年

ハ我國西南ニ兵役アリテ政府ノ需要少ナカラサルノミ
ナラス西南沿道ノ人民中該役ノ為メニ意外ノ資財ヲ贏
得セルモノアリテ一ハ止ムヲ得サリシニ出テ一ハ其買
カヲ得タルニ依リ何レモ外物ヲ購求シテ以テ其輸入ヲ
促カセルアリ故ニ当年ノ輸入物品價格ノ輸出ニ超過セ
シモノ凡四百餘万ニ上リ為メニ金銀類ノ輸出ハ殆ント
八百万ニ近ツキ貨幣市上ハ歐洲ノ銀貨ノ再下落ニ関セ
ス毎ニ洋銀我金貨ノ上ニ位シ或ハ相比ヒテ進行シ金貨
較其眞位ヲ占ムルノ勢ヲ發起セシハ實ニ九月十月ニ在
リ然ルニ右九月十月及十一月ハ歐洲ノ銀貨復々稍回復
ノ色ヲ顯ハセルノ時ニシテ洋銀ハ應サニ低落スヘキノ
時ニアラサリシニ却テ之ニ反スルモノハ他ナシ單ニ年
末ニ至テ我輸出入稍相近ツキ終ニ輸出カ輸入ニ勝ツニ

至リタルノ時機ト及支那印度等ノ金銀市上ノ形況トノ
為メニ各港ノ外高其為替相場ヲ以テ我貨幣市上ノ動止
ヲ羈束セシニ由リタルヲ瞭然タリ
明治十一年 本年西南ノ事全ク終レリ然レモ前年末引
續キ西南沿道ノ民外物ヲ購入セシト多ク又当年ハ金祿
公債証書ノ下附及其賣買許可ノ令アリシヲ以テ紙幣カ
都府及各道僻地ノ士族輩ノ手ニ落ツルト頗ル多カリシ
ニ夫ノ士族輩ハ其用度ニ窘究ヲ告タルノ期ニ際シ渴望
セシ所ノ買力ヲ一時ニ其手ニ収メタルヲ以テ多クハ之
ヲ生利殖産ノ途ニ用フルノ遑ナク直チニ日用外物ノ購
求ニ支消シ或ハ更ニ之ヲ空費シテ以テ細民ヲシテ外物
購求ノ資ト為サシマルノ實アリキ故ニ金祿公債証書ノ
下附ハ即チ間接ニ外物購求ノ大因ト化シ当年ノ輸出ハ

前年ニ比スレハ凡二百四十四萬ノ増多ナリト虽モ輸入
モ亦前年ニ増過セシ丁凡五百五十萬ニシテ竟ニ当年ノ
輸入ノ輸出ニ超過セシモノハ全ク七百餘万ニ達シタリ
(第三表ヲ見ルヘシ)之レニ加フルニ年来巨額ノ我金銀ヲ
輸出シ以テ較貿易ノ權衡ヲ補ヒシニ今ヤ我金銀ハ早已
ニ市上ニ欠乏シ以テ輸入物品ノ代償ニ充ツヘキモノナ
キノ勢ニ迫ラレタリ(第四及第七表ヲ見ルヘシ)又之ニ加
フルニ奸高輩カ洋銀將サニ騰貴セントスルノ時機ニ投
シ更ニ之ヲ助クルアリ(第八表ヲ見ルヘシ)諛表ハ即チ横
濱洋銀取引所ノ取引高ヲ示スモノニシテ現ニ諛港ノ外
物賣買上ニ要スヘキ洋銀実高ヲ推算シ以テ此取引高ニ
比較セハ其間奸高輩カ洋銀相場ノ前進ヲ助ケタルモノ
何如ヲ推知スルニ足ルヘシ)夫レ当年ノ洋銀相庭ヲ顧レ

1911
ハ四五兩月間ニ於テ新茶ノ輸出頗ル大額ニ上リタルト
五月ノ輸入稍少ナカリシトニ因リ僅カニ其下落ヲ示セ
ルノ外毎ニ月ヲ逐テ騰上シ終ニ十月ノ一大騰貴ヲ顯ハ
スニ至レリ是レ前述數因ノ然ラシムル所ニ非サルヲ得
シヤ(第一表ヲ見ルヘシ)但此際ニ於テ偶蚕紙及生糸ノ代
銀若干我高民ニ歸シタルト又政府ノ俄ニ横濱洋銀取引
場ヲ閉鎖セシメタルトノ二件ニ由リテ十月ヨリ十一月
ノ間一時洋銀低下ノ外況ヲ示セルカ如シト虽氏其實ニ
得タルノ洋銀ハ少額ナリ閉鎖ハ一時ノ權宜ナリ到底騰
上シテ止マサルノ實勢ヲ挽回スルニ足ラス故ニ年末ニ
至ラハ更ニ益騰上シ殆ト底止スル所ヲ知ラサルモノ
ノ如シ只当年ノ貨幣市上ニ於テ大ニ他年ト異ナリシモ
ムハ各貨ノ本性ト及其用トニ從ツテ交互ノ間各其差ヲ

異ニスルモノ稍多其当ヲ得ルニ近カリシニアリ(但我銀貨ヲシテ大抵毎ニ洋銀ノ下ニ在ラシムル所以ノモノハ是レ其實用現ニ貿易ノ正媒ヲ為サス只其助媒タルニ過キサルニ由リ又内高其高權ヲ外高ニ委ニ只他ノ之ヲ買フニ任シテ昂低スルヲ以テナリ)然レ氏到底我カ金價ノ銀貨ニ對スルノ割合ハ歐洲ニ於テノ金價ノ銀價ニ對スルノ割合ノ如クナル能ハサリシハ前ニ第一表ト第二表ノ比較ニ於テ論述セルカ如シ

本年一月及二月ハ洋銀ノ騰貴更ニ前年ノ末ヨリモ甚シ然レ氏洋銀ニ對スル我金貨ノ價モ亦頗ル起騰躍進ノ状アリ故ニ本年二三両月ノ頃ニ至ツテハ其差殆シト歐洲ノ金銀相場ニ追隨セルモノ、如シ蓋シ其然ル所以ヲ尋ヌルニ前論ノ如ク我人民漸ク金貨ノ貴重スヘキヲ感

覺シ漫ニ市上ニ輸送セズ市上之レカ為ニ金貨甚々乏シキニ因ルト虽氏亦我各港ノ貨幣市上當時他ニ其市況ヲ動カスニ足ルモノナクシテ只毎ニ外國ニ送金アルノミナルカ故ニ外高カ為替相庭ヲ立ツルニ專ラ歐洲ノ金銀相庭ニ基キタルヲ以テ其價格ノ我金貨ニ影響シタルモノ亦大ニ其因ノ一部ニ居ラサルヲ得ンヤ
爰ニ余輩ハ又金銀貨幣及紙幣ノ發行高及各公債証書發行高ノ製表ヲ繕シ以テ事跡ノ前論ト相度ラサルヲ發見セリ仍テ之ヲ左ニ掲出シ以テ讀者ノ参照ニ供ス

第九表

貨幣發行及流通高表及内外國債高表

世人或ハ曰我金銀貨及洋銀ノ騰貴ハ紙幣ノ增多ナルニ因ルト是其數ノ最モ觀易キモノニ就テ立ツル所ノ説ニ

シラ且ツ人ノ信シ易キ所ナリ然レモ子細ニ其騰貴ノ実
情ヲ探討スレバ此ノ如キノ説者ハ只其外容ヲ見テ未
其実因ヲ究メサルモノト謂フ可キノ之何ヲカ外容ト云
フ曰ク西南ノ役ハ明治十年ノ始ニ起リ而シテ金銀貨ノ
騰貴ハ其六七月ニ甚シ西南後費ノ為メニ紙幣発行ノ最
高額ニ至リシハ十年ノ末ニアリテ而シテ金銀貨ノ再大騰
貴ハ十一年ニ三月頃ニ在リ又銀行紙幣ノ発行最巨額ニ
達シタルハ十一年ノ末ニ在リテ而シテ我金銀及洋銀ノ
非常騰貴ハ實ニ同年十月以降ニアリ是レ即チ説者カ據
テ以テ説ヲ立ツル所ニシテ而シテ余輩カ所謂外容ナルモ
ノモ亦之ヲ指スナリ夫レ已ニ斯ノ如キノ外容アリ前ニ
所謂金銀ノ真位ヲ識認セサルノ輩漫然之ヲ見テ以テ此
説ヲ起スハ亦深ク異シムニ足ラサルナリ然レモ一犬虚

カ吠ハ万犬之ニ從フ若シ世人ヲシテ誤テ其説ヲ信マシ
メハ或ハ既ニ騰貴ヤルノ金銀ヲシテ更ニ一層ノ騰貴ヲ
加ヘシムルノ恐ナキ能ハス況ニヤ此説ノ如キノ外容ノ
頗ル之ニ似タルモノアルヤ此ヲ以テ余輩ハ為メニ其
實因ヲ討究シ以テ世人ノ迷霧ヲ排披セシムルハカ
ラス曰ク何ヲカ實因ト云フ曰ク我金貨ノ銀貨洋銀ヲモ
稱スヨリモ騰貴ヤシハ外國ノ金銀相場及ヒ横濱為替相庭ニ
之レ因ルナリ(第一表及第二表ニ係ル論説ヲ見ルハシ)其
銀貨カ紙幣ニ對シテ騰貴ヤシハ即チ金銀既ニ欲之ヲ告
ルニ際シ輸入物品カ輸出物品ニ超過スルモノ尙正スル
所ヲ知ラサルノ勢アルニ之レ因ルナリ而シテ專ラ十年及
十一年ノ発行紙幣ニ就テ之ヲ謂ハ、其発行額ハ決シテ
民間ノ需用ニ過多ナリト為スヘカラスト虽モ其用途ノ

直シキヲ得サリシモノハ則之カ因タラサルヲ得サルナ
リ蓋シ本邦従来金銀貨ニ乏シカラマ然レ凡人知漸ク開
ラケ民業漸ク繁ナルニ從テ貨幣モ亦其數ノ增多ヲ要ス
故ニ旧政府ノ時代ニ於テ已ニ諸大名等ハ各金銀札又ハ
米札等ヲ逐次發行シ以テ貨幣流通ノ不足ヲ補ヒシニ維
新以後大名ノ諸札ハ悉皆政府ノ廢停スル所ト為リ頓ニ
通貨ノ不足ヲ来シ之ニ加フルニ國費多端ノ為ニ政府貨
幣ヲ要スルト多ク此時ニ當リテハ政府ハ之ヲ悉皆人民
ニ課シテ貢納セシメシカ民間通貨ノ不足更ニ甚シキヲ
是恐ル爰ニ於テカ政府ハ官民ノ便宜ヲ謀リ追次ニ金札
又ハ紙幣ヲ發行シ以テ國費ニ支給シ傍通貨ノ不足ヲ補
充セリ然ルニ近来貢法ハ變シテ金納トナリ爰ニ於テ幾
千万円ノ收税及其仕拂ハ貨幣ニ非サレハ行ハレス全國

幾千万石ノ米粟貨幣ニアラサレハ尺寸モ農人ノ手ヲ離
レヌ而シテ彼ノ祖法ノ如キハ政府早ク貨幣ノ足ラサル
カ故ニ納期ニ際シ農民一時ニ賤賣セサルハカラサルノ
弊アルヲ察シ更ニ半米ノ典ヲ施サルト雖モ去年金祿公
債ノ賣買ヲ許サレテヨリ我國ハ更ニ一大高品ヲ増シ東
京大坂等ノ地ニ在テハ一日一兩ニ於テ或ハ幾十萬幾百
萬ノ取引ヲ為スモノアルニ至リ實ニ其貨幣ヲ要スル影
大ナラサルヲ得ヌ又従来ノ士族ノ或ハエト為リ或ハ商
ト為ルモノ亦其營業上ニ許多ノ貨幣ヲ要セサルヲ得サ
ルナリ今ヤ此等ノ實事ヲ列舉シ示レハ我國内ニ要スル
貨幣ノ數額ハ維新ノ時ニ比スルニ概シテ之ヲ三倍若シ
クハ四倍ナリト云フト雖モ亦過大ノ言ニアラサルベシ
蓋シ十年西南ノ役及近年銀行設立ノ為メニ發行セラレ

タル紙幣ノ如キハ其實右等ノ計算ノ為ニ増祭セラレタ
ルニアラスト虫尾若シ其紙幣ノ用途ヲシテ其宜シキヲ
得セシメハ世上通貨ノ不足ヲ補フノ便益アリテ人民ハ
今日却テ其發行額ノ尚ホ未タ多カラサレテ憾ムニ至リ
シナル可シ惜哉其増祭紙幣ハ興業殖産ノ途ニ其用ヲ為
スヲ得スシテ偏ニ他ノ一方ニ向テ究民一時ノ困乏ヲ補
充セシカ為メ却テ其奢侈心ヲ助長シ徒ラニ不急ノ外物
輸入ヲ促進マルノ資(明治九年ノ除ニ係ル論說ヲ見ル可
シ)トナリテ以テ洋銀騰貴ノ一大因タルニ至リシナリ若
シ其紙幣ヲシテ興業殖産ノ途ニ其用ヲ為スヲ得セシメ
ハ縱令其散布スルノ紙幣ヲシテ幾分カ外物購求ノ途ニ
向ハシムルモ其業産ニ依テ得ル所ヲモテ以テ我輸出ヲ
増益スルノ實アルカ故ニ到底洋銀ノ騰貴ハ今日ノ如キ

甚シキヲ見サルヘシ
說者或ハ余輩カ論ヲ駁シテ云ハシ内國通貨ノ不足ハ或
ハ然ラシ然リトイヘモ真貨騰貴ノ原因ハ豈特ニ子ノ說
ク所ノミナランヤ支レ不交換ノ紙幣ニシテ能ク永久ニ
真貨ト同位ニ併立スルヲ得ルモ、ハ(真貨ノ數額毎ニ紙
幣ノ數額ニ超過スルノ國ヲ除ク外)其例蓋シ鮮シ矣今
ヤ政府ハ其交換ノ期約ヲ立テシテ益之ヲ増祭ス故ニ
真貨漸ク騰上マルナリ且子ノ說ノ如クナラシメハ輸入
超過及金銀ノ輸出スルモノ前年未已ニ久シ金銀何ソ必
スシモ輒速テ族テ而後俄ニ騰貴セシヤ不真貨ノ騰貴ト
云ハ其實紙幣ノ但下セルナリト曰ク真貨ハ固ヨリ貴重
スヘキナリ其數ノ多キ亦固ヨリ喜フ可キナリ然ルニ其
貴重スヘキノ所以ハ何ソ賣買ノ仲媒タルニ最便ナルニ

在リ之ヲ永久ニ貯藏スルニ世変及ヒ火濕ノ為メニ損害
ヲ受クルト最モ少キニ在リ其色彩光輝ノ愛スヘキニ在
リ而シテ内外人民ノ最モ貴重シテ互ニ之ヲ得ルニ汲
タルモノハ他ナシ其賣買ノ仲媒ヲ為スヲ獨リ本邦ニ於
テスルノミナラマ之ヲ外國ニ齎ラスマ仲媒ノ用ヲ為サ
ガル所ナキニ在リ我國元ト金銀ニ乏シカラマ若シ之ヲ
外國ニ輸出シ去ラルハニアラサレハ其貯藏及觀美ヲ欲
スルモノヲシテ其希望ヲ達セシムルニ決シテ不足ナカ
ルヘシ其レ交換ハ美譽ナリ誰カ敢テ不字ヲ説カン然レ
氏交換ハ紙幣ノ本用ニ在ラズ紙幣ノ本用ハ首トシテ真
貨ノ代理タルニ在リ租税ハ紙幣ヲ以テ納ムヘク内産ハ
紙幣ヲ以テ買フヘシ若シ貯藏觀美ノ希望ニ供スルノ數
今已ニ足ルトセハ紙幣ノ交換ヲ要スルハ只其真貨ノ代

理ヲ為シ能ハサルノ時(即外國若クハ外人ニ負債ヲ拂出
サントスル場合)ニ在ル而已故ニ設シ輸出物品ノ代價ヲ
シテ毎ニ能其輸入物品ノ代價ニ贏チ又ク之ヲ支フルニ
足ラシモハ他ニ何處ニ交換ヲ之レ要セシヤ只本邦ノ人
民其輸出物品ノ度ヲ計ラズシテ漫ニ外物ヲ購入ス是金
銀ヲ海外ニ漏脱マシメ以テ其市價ヲ騰上セシメタル所
以ニシテ決シテ紙幣增多ノ罪ニハアラサルナリ故ニ假
リニ西南ノ役費及銀行紙幣ハ何レモ之レヲ特ニ人民中
ノ有力者ヨリ貢納マシメタルモノカ又ハ已發行ノ紙幣
ニシテ偶々大藏省中ニ在リシモノタラシムルモ西南沿
道ノ人民及公債証書賣却ノ士族ヲシテ其得ル所ノ紙幣
ヲ用フル彼等カ現為ノ如クナラシメハ金銀貨ノ騰貴ノ
一事ハ猶今日ト異ナルトナカルヘシ何トナレハ金銀貨

騰貴ノ因ハ紙幣ノ増発ニ在ラスシテ其用途宜シキヲ得
カリシニ在リ其用途宜シキヲ得カリシノ事ハ是外國ニ
對スルノ負債額ヲ増加セシメタルモノナレハナリ是之
ヲ察セスシテ銀貨ノ騰貴ヲ紙幣ノ増発ニ歸スル者ハ豈
迂濶論者ト詔ハサルヲ得シヤ又昨十一年十月ニ在リシ
銀貨非常騰貴ノ如キハ彼ノ投機高ノ術數及ヒ所謂世上
ノ人氣ナルモノ幾分力之カ勢綫ヲ助ケタルニ非ラサル
ヲ得シヤ然リ而シテ世上一般ノ人氣ヲシテ銀貨騰貴ノ
思想ヲ起サシメタルモノハ何ソ亦輸入物品ノ需要ノ増
加セルト金貨市上ニ缺乏セルトノ二者ニ外ナラス且夫
レ昨年十月ノ騰貴ハ亦自ラ因襲ノ漸アリテ然ルナリ請
フ之ヲ列挙セン我維新以前ノ輸出入ハ之ヲ詳知スルニ
由ナシト虽氏概子之ヲ老高ニ質スニ毎ニ輸出ノ輸入ニ

及ハサリシト及我人民金銀ノ真價ヲ知ラス之ヲ賤賣シ
テ以テ不急ノ外物ヲ貴買セシトハ明カナリ又我明治ニ
年ノ歉歲ニ逢ヒ輸入ノ超過前後未曾有ノ大額ニ上レリ
(第三表ヲ見ルヘシ)故ニ尔後新金貨ノ発行アリト虽氏其
一大輸入超過ノ餘勢ト尔後負フ所ノ債額ノ多キトノ為
メニ真貨ノ市上ニ出ルモノハ直ニ外人ノ船載シ去ル所
ト為リ明治七八年新金貨ノ輸出額ノ如キハ實ニ本邦人
ヲシテ憤然ニ堪ヘザラシメタリ又明治九年ハ偶歐洲養
蚕ノ不作ニ逢ヒ又加フルニ歐洲銀價ノ大下落アリ此ニ
件ハ巨額ノ銀塊及洋銀ヲシテ我國ニ輸入セシメタリト
虽氏元來我人民ハ金銀ノ真價ヲ知ラス刺ハ洋銀ハ其通
用各副港ニ限ルカ故ニ其相庭ハ之ヲ我金貨ニ比スレハ
則チ甚々高ク之ヲ我量位殆ニト相均シキノ銀貨ニ比ス

ハ則チ甚ク卑シ爰ヲ以テ外人ハ縱令其物品ヲ賤賣ス
ルモ尚其必要ノ洋銀ヲ賤買スルヲ得ルノ利アリ又彼ニ
洋銀餘リアレハ則チ我金貨及古金銀ヲ買收シ去ルヲ常
トス故ニ洋銀ノ有餘不足ハ彼我ノ何レニ在ルヲ向ハス
損ハ則常ニ我ニ帰シ利ハ則常ニ彼ニ収メラル、ノ勢ナ
リキ而シテ爾來輸出物品ノ以テ輸入ニ贏ツモノ無キカ
為メニ已出ノ金貨復々回到スルノ期アルナシ此ヲ以
テ遂ニ十年六七月ノ洋銀大騰貴ヲ未タシ又十一年二三
月ノ再大騰貴ヲ未タシ終ニ同年十月ノ非常騰貴ヲ大成
シタルナリ其間我輸出ノ稍高額ニ至ル毎ニ多少洋銀騰
貴ヲ壓止セシトアリト雖到底輸出ノ輸入ニ敵マルヲ得
サリシカ為メニ所謂壓止ハ只其一時ノ効力ニ過キサリ
キ之ニ由リ是ヲ觀レハ昨年十月ノ騰貴ハ即チ漸積ノ勢

ヨリ由來マシモノニテ豈之ヲ紙幣增多ニ因ルト云フヲ
得ヘシニヤ說者若シ第一表及第三表ヨリ第八表ニ至ル
迄ヲ熟閱セハ則亦自得スル所アラシ
又說者ハ紙幣値下ヤリト云是紙幣自ラ其買力ヲ減シタ
リト傲モノナリ若シ假ニ此說ノ如クナラシメハ即紙幣
ノ信用ヲ減シタルモノニシテ之ヲ直說スレハ則チ我政
府ノ信用ヲ減シタルナリ然ラハ則チ内産物モ亦外産ト
共ニ其價ヲ増サ、ルヲ得ス又紙幣ヲ有スルモノハ相互
ニ競テ之ヲ他ノ有價物ニ交換セシトヲ欲シ取引上必ス
其影響ヲ現サ、ルヲ得サル可シ實際果シテ此形情アル
ヤ否余輩ハ未タ曾テ之ヲ見サルナリ而シテ余輩ハ亦左ノ
第十表ヲ得テ弥余輩ヲ説ノ誤謬ナラサルヲ覺知セリ

第十表

・米價表

余輩ハ談表ニ就キ其昂値セル所以ヲ常平局及米高某氏ニ質シタルニ其答ニ曰ク明治七年ハ近來ノ不作年ナリシカ故ニ八年四月頃ニ至ルノ相庭ハ余ノ前年米ノ相庭ヲ受ケテ高位ニアリシナリ然ルニ八年ハ各地共至ラ無難ナリシカ故ニ六七月頃ヨリハ其例年米價稍騰貴スヘキノ時令ナルニ閏マヌ漸次ニ下落ノ姿ヲ顯ハセルナリ又當年九月十月十一月及十二月ニ至リ非常ニ下落ヲ為マシモノハ他ナシ當年出米米ノ見込定リテ其本價ヲ得タルヲ以テナリ又曰ク九年ハ其前年ノ作豊カナリシヲ以テ相庭常ニ低位ニアリ而シテ其一月ヨリ以降東京却テ阪地ヨリモ位カシレハ東國ノ作殊ニ好クシテ西國其割合ニアラサリシ

カ故ナリ爰ヲ以テ現ニ當年ハ阪地ヨリ東京ハ、田漕ナカリシ又此春ハ朝鮮ニ使節ヲ差遣マラレシカ其事頗ル西國筋、人氣ヲ動シタリ又當年六七月東京ノ米高中頻リニ空米ヲ賣出シタルモノアリ又當年ノ輸出米ハ多ク大阪兵庫ヨリ船載セリ此等ハ皆東京相場ノ大阪ヨリモ毎ニ低位ナリシ、因テ為セリ其八月九月ノ騰貴ハ在米漸ヤク乏キニ向フト天氣上、見込トニ因リ例年起ル所ノ相庭ニシテ別ニ疑ヲ容ル可キナシ而シテ其十月十一月及十二月ニ至テ大下落ヲ為セルモノハ全ク當年ノ出米柄極メテ充分ナリシヲ以テナリト又曰ク十年ハ昨年ノ大作ヲ受ケ諸方一同低位ニ在リシカ阪地ハ尚去年ノ餘響ヲ受ケ久シク東京ヨリモ高カリ

其二月西征ノ後起リ又六七月ニハ旱魃殊ニ甚シカリ

レヲ以テ六七七月ニ至ラハ一時ニ非常ノ騰貴ヲ顯ハシル
後頗ル回復ノ色アリシト云モ到府斯年ノ作ハ去年ノ如
クナラサリシカ故ニ九月十月ヨリ再ヒ漸次ニ高點ニ向
ヒ以テ此年ノ局ヲ結ヘルナリト
又曰ク十一年阪地ノ相場ニ一ノ衰状ヲ示セルモノアリ
是レ一ハ支那ノ饑饉ニ罹リシヲ以テ我政府米ヲ買入レ
ントスルノ風評頻リニ其地方ニ起リタルト一ハ此時阪
地ニ多分空米ヲ賣込ミタルモノアリテ其取引ニ際シ現
米足ラサリシトノ為メニ一時著シキ高點ニ騰リタルモ
ノ之ナリ而シテ此騰貴ハ全ク一時ノ事ニシテ其翌月ニ
至リテハ再ヒ其常ニ復セリ然レモ其頃ハ支那饑饉ノ評
世上ニ盛ニシテ何トナク米價一般ニ高騰ノ氣ヲ持テ
以テ又四月ニハ洪澤棠一益田孝等ノ請願ニ應シ常平局

ヨリ米若干石ヲ神戸ニ於テ拂下ケメリ是レ其實ハ別ニ
騰貴ヲ促スヘキニアラサリシモ世人ハ却テ必ス多量ノ
輸出アラシトシテ推想シ以テ其相庭ヲ騰上セシメタリ然
ルニ到底當年ノ作ハ充分ナラサリシカ故ニ秋晚ヨリ相
庭ハ追次ニ騰上シ十一月及ビ十二月ニ至ラハ終ニ高點
ニ住著シテ動カス以テ今年ニ及ヘリ然レモ是レ全ク作
柄不充分ナリシニ因ルノ實果ニシテ決シテ他因アルニ
アラサルナリト
常平局及米高ノ所見右ノ如シ然レモ余輩カ思考ニ據レ
ハ去年暮ヨリ今年ニ至ルノ金銀貨ノ騰貴ハ所謂人氣ナ
ルモノニ關係スルガナカラズシテ多少米價ニモ其影響
ヲ與ヘサルヲ保シ難キカ故ニ敢テ些少ノ感動ナシト判
定スル能ハス然レモ縱令幾分ノ感動アルモ是レ金銀騰

貴(即チ別ニ原因アルモノ)ノ影響スル所ニシテ決シテ紙幣ノ信ヲ減シタルヨリ由來セシニハアラサルナリ又之ヲ他物ニ徵スルニ最モ外國貿易ニ緊密ノ關係アル物品乃チ生糸ノ如キハ洋銀ノ騰貴ニ因リ頗ル騰貴ノ色ヲ顯サガニアラスト魚尾此ヲ洋銀ノ騰貴ニ比スレハ尚低位ニ在リ是レ製糸者ノ其絲ヲ賣ルハ先ッ其本地ニ於テ製造スルノ元費(紙幣)ヲ計算シ其餘ハ只善買者ヲ撰ブニ止リ敢テ自ラ其賣價ヲ豫定セス而シテ其代銀ヲ得ルヤ直チニ之ヲ紙幣ニ交換ス故ニ洋銀五百弗ニシテ紙幣六百五十四ヲ得ルハ洋銀六百弗ニシテ紙幣六百五十ヲ得ルト其計算上得失ナクシテ製造元費ハ尚四ニ依リ増加セサルヲ以テナリ而シテ生糸ハ到府洋銀ニ對シテ賣ルモノ

ナレハ縱令騰貴セルノ洋銀ニ對シテハ幾分カ低下スルモ其代銀ヲ紙幣ニ換ヘ以テ其元費(旧ニ依リテ増加セサルモノ)ヲ引去レハ其餘ヲ所ハ自ラ前日ヨリモ多クシテ即製糸者ニ歸スル利益ノ增多ナリ彼繭價ノ騰貴セルモ即製糸者ノ利益多キカ為メニ競フテ之ヲ買収スルニ由ルモノニテ他因アルニハアラザルナリ夫レ米ハ則我國人民ノ必需品ナリ生絲ハ則我輸出品中最モ著大ナルモノナリ已ニ此ニ物ニ於テ紙幣增多ノ關係ヲ見サレハ其他ノ須要之ニ並クモノハ亦推シテ知ル可キナリ又專ラ輸出品ニ就テ之ヲ觀レハ洋銀騰貴セシ以來外商ハ低價(洋銀)ヲ以テ其商品ヲ買フコトヲ得内商ハ昇賣スルモ其實尚利益(紙幣)多キノ情勢ナルカ為メニ自ラ多少ノ製産及輸出ヲ増益シタルノ實ナキニアラズ生糸蠶銅ノ如キハ

其最モ著シキモノトス(若シ紙幣ヲシテ實ニ其信ヲ失ハシメハ豈ニ斯ノ如キノ情況ヲ見ル可ケンヤ

余輩ハ又左ノ第十一及第十二表ニ依リ東京横濱間及大阪神戸間ノ金利ノ比較及東京大阪ノ所有公債証書高ヲ識得シ更ニ前論ノ誤謬ヲ示サルヲ証明スルヲ得タリ

第十一表

金利表

第十二表

諸公債証書有高表

(東京、大阪)

夫レ九年東京横濱ノ金利カ其八月九月及十月ニ騰貴セシモノハ抑モ何ツヤ假令他ニ鎖少ノ理由アルモ其大要ニ至リテハ誰レカ之ヲ當時生糸出荷為替ノ繁忙ナリシニ因レリト云ハサレヨ得シヤ然ラハ則チ十年同地同時

騰貴前年ニ如カサリシハ亦之ヲ生糸出荷為替前年如ク繁忙ナラサリシニ之レ由ルト云モ決シテ妄斷ニハアサルヘシ然ルニ昨十一年ニ至ラハ十月十一月及十二月ニ及ラ騰貴シ八月九月ニハ却テ前年ノ如キノ騰貴ヲ見サリキ夫レ十年ニハ西南ノ夏夏ニ由リテ紙幣ノ出額頗ル多ク又昨十一年ハ銀行紙幣ノ發行額最モ多キノ年ナリキ今姑ラ九年ノ騰貴ハ為替ノ繁忙ニ因リ十年ノ騰貴前年ノ如クナラサリシハ為替前年ノ如クナラサリシト紙幣ノ發行多カリシトニ因ルモノトセハ昨年未ヨリ今年ニ至リ因内ニ紙幣尤モ充足セシノ時ニ在テ金利ハ却テ前々年及前年ヨリモ騰貴セシハ實ニ怪ムヘキニアラスヤ蓋シ是レ昨年ハ輸出ノ歳晚ニ至ラ多カリシニ因リ多少其因ノ一部ニ居ル可シト虽モ他ナシ有金者カ

首トシテ公債ヲ買ヒ又ハ之ヲ抵当ニ取リ其代リノ紙幣
ハ各地ノ小民ニ散布シテ有金者ノ手中ニ存セサルノ實
乃チ此騰貴ヲ致シタルノ本因ニアラサルヲ得ニヤ(大坂
去冬ヨリ今年一二月ノ利子非常ニ昂騰セシモ亦此論旨
ニ外ナラサルヤ明カナリ第十ニ表ト参照スヘシ又十年
ニ於テ西南沿道ノ人民外物ヲ購求セシノ事ハ以テ洋銀
ノ騰貴ヲ促カシタリト雖モ其東京大坂等ノ金利ニ影響
ヲ與ヘザリシハ其用井レ所借入レ金ニ非ラサルヲ以テ
ナリ)支レ金利ノ昂低ハ常ニ通貨ノ集散ニ由ルモノトス
試ミニ着ヨ金利ノ低位ニ在ルハ東京及大坂ニ紙幣最モ
多キノ時ナリ金利ノ最モ高位ニ在ルハ東京大坂ニ紙幣
最モ少キノ時ナリ何故ニ洋銀ハ例年殊ニ十一年ニハ紙
幣多キノ時(即チ金利低下ノ時)ニ昂騰セスシテ却テ紙幣

少キノ時(即チ金利騰貴ノ時)ニ於テスルヤ紙幣ノ多寡ハ
直チニ洋銀ノ昂低ニ関セサルヤ以テ証スヘキナリ(例年
二月三月若クハ三月四月ハ輸出商品殆ト尽クルノ時
ナルニ輸入ハ却テ此時ニ多キヲ以テ此際ニ動ク所ノ洋
銀相場ハ因ヨリ尋常視ス可カラサルモノアリ又九年十
年及十一年共六七月ノ際毎ニ洋銀相場ノ多少低落セル
ヲ見テ或ハ余輩カ説ヲ疑フモノアル可シトイヘ已ニ
余輩カ前ニ論セル如ク輸出物品ノ多寡ヲ照見セハ分明
ナルヘシ)又紙幣用途ノ大要ヲ察スレハ九年及十年ニハ
之ヲ通商進益ニ用ヒタリ十一年ニハ之ヲ活動セサルノ
公債証券ニ用井タリ而シテ金利ノ騰貴ハ九十二三年ニ
於テハ我輸出品多キカ為メニ起リシニ十一年ニ在リテ
ハ之ニ及シテ却テ外物購求ノ為メニ起レリ故ニ利子同

シタ騰リタルモ子細ニ之ヲ分析セハ九十二ヶ年ノ金利
騰貴ハ一ハ間接ニ洋銀ノ大下落ヲ起シ一ハ間接ニ洋銀
ノ騰貴ヲ抑ヘシ然ルニ十一年ニ至ラハ則其金利ノ最モ
騰貴マシモノ却テ洋銀大騰貴ノ間接ノ因ヲ為テリ其用
途異ナルカ為メニ其効ノ同シカラサル斯ノ如シ然ラハ
則チ十一年ニ於テ紙幣ノ小氏ニ散布シタルモノハ獨リ
洋銀ノ騰貴ヲ致セシノミニ止ララスシテ又金利大騰貴
ノ惡果ヲモ併致シタルモノナリ蓋シ到底紙幣ハ過多
ルニアラス只其所在ト用途トニ隨テ其効用ヲ異ニスル
ノミ察マサルヘカラス

又或人近來歐洲ノ金價カ銀及其他ノ物品ニ對シ騰貴ヤ
シヲ見テ曰ク本邦ノ金貨及洋銀カ紙幣ニ對シ騰貴ヤシ
ハ虚價ナリ實ハ金價カ銀ニ對シテ上リ銀貨カ金ニ對シ

テ下リタル而已金銀共ニ騰貴セリト云フハ實務ニ近ナ
ルモノナリト然レト斯ノ如キ論者ハ我カ紙幣ハ我法律
上ノ通貨ニシテ金銀貨ノ代用ヲ為ス可キモノタルヲ忘
却シ又元未代用タルモノハ其本主ト同位ニ立チテ其間
差違ヲ生スヘキニアラサルニ現ニ金ニ對セハ四割以上
銀ニ對スルモノニ割以上ノ差違アルヲ忘却シタルモノト
云フ可シ夫レ元真貨ト同位ニ立ツヘキ且久シク同位ニ
立チタル紙幣(我國通貨中最モ多ク用テ為セルモノ)ニシ
テ今日差ヲ生スル現實ノ如クナル時之ヲ何如シヤ金銀
ノ騰貴(紙幣ニ對セハ)若クハ紙幣ノ低落(金銀ニ對セハ)ト
云ハサルヲ得シヤ然ルニ内産ニ就テ之ヲ見レハ物價ハ
多ク金銀ト共ニ騰ラス(紙幣ニ對シ)却テ紙幣ト共ニ低位
ニ在リ(金銀ニ對シ)故ニ本邦人カ之ヲ金銀ノ騰貴ト云フ

ハ抑モ故アリ決シテ迂ナルニアラサルナリ夫レ歐洲ニ
於テ金位騰貴シ銀貨及其他ノ物品カ低位ニアルト云フ
ハ則チ我國ニ於テ金銀位騰貴シ紙幣及其他ノ内産カ低
位ニアルト云フニ同シクシテ只彼カ騰貴ハ金ニ止リ我
カ騰貴ハ金(四割以上)及銀(二割以上)ニ併及マレノ異アル
而已然レモ其彼我ノ事情ノ異ナルカ為メニ我内産カ綴
令金貨ト共ニセサルモ銀貨ト共ニ騰上セサルハ即我物
産ノ價ハ外國物産ノ價ヨリモ低位ナルモノニシテ其間
係ハ固ヨリ少ナカラサルナリ其レ之ヲ思ハスニシテ金銀
ノ紙幣相庭ハ虚價ナリ之ヲ喋々スルハ実務ニ迂ナリト
云ハ却テ之ヲ評シテ實務ニ太迂ナルノ説ト云ハサルヲ
得シヤ然リ而シテ我銀貨及洋銀ト我紙幣トノ差ノ如キハ到
底之ヲ輸出入ノ実況何如ニ帰セサルヲ得サルナリ

故ニ余輩ハ爰ニ前説ヲ收結シテ更ニ其要旨ヲ凡ニ摘述
ス可シ

曰ク我各港ノ洋銀相場騰貴セル所以ノモノハ

我金銀ハ外出シテ已ニ内ニ欲之セルニ輸入物品ノ代
價カ輸出物品ノ代價ニ超過スルモノ尚其底止スル処
ヲ知ラサルカ如キヲ莫一因トシ

又金銀ノ外出シタルモノハ
又金銀ノ外過ヲ莫一因トシ

又本邦金銀兩貨ノ差ハ外人ノ手ニ成リテ本邦人ノ
手ニ成ルニアラサルモノトス

又紙幣ノ増發明治十年及十一年ニハ決シテ洋銀ノ騰

行明
十
年
及
十
一
年
ニ
指
ス

七
歳
目

貴ヲ起サストイヘ氏只其用途宜シキヲ得サリシカ為
メ輸入ノ増進ニハ一因ト成リタルモノトス
但氏業ノ閑進ハ必ス通貨ノ増益ヲ要ス可キヲ以テ
本邦ノ通貨現今果シテ其所要ニ適スルヤ否ヤハ尚
別ニ論述スル所ナルヘシ
又昨十一年十月ノ洋銀騰貴ハ因襲漸積ノ勢ヨリ成レル
モノニシテ當時別ニ特因ヲツテ然リシニアラサルモ
ノトス

蓋シ方今我商人ノ外商ト貿易スルヤケリ」氏カ所謂弓
矢舟楫ヲ以テ漢獵スルモノト赤手ニシテ漢獵スルモノ
トノ別アルカ如シ其勤勞ノ代償ヲ得ルイ我レノ彼レニ
如カサルハ固ヨリ疑フニ足ラズ然レ氏漸ヤク弓矢ヲ作
シ又舟楫ヲ製スルニ至ラハ終ニ其利ヲ均シクシ或ハ我

レカ彼ニ勝ツニ至ルモ亦期ス可カラサルニアラス且夫
レ我國輸出スル所ノ物品(金銀ヲ除キ)ハ大抵我人民ノ製
産レ得ル所ニシテ其輸入スル所ノ物品モ亦我民生ヲ益
シ人知ヲ閑ラキ工業ヲ進ムルノ資タルモノ(木綿類毛類
圖書機械類等)少ナシトセズ逝クモノハ追フヘカラス能
ク此情勢ヲ挽回セント欲セハ惟今後之ヲ處スルノ術如
何ニ在ルノミ

鈴木利亨
神鞭知常

大清... 宣統元年... 宣統二年... 宣統三年... 宣統四年... 宣統五年... 宣統六年... 宣統七年... 宣統八年... 宣統九年... 宣統十年... 宣統十一年... 宣統十二年... 宣統十三年... 宣統十四年... 宣統十五年... 宣統十六年... 宣統十七年... 宣統十八年... 宣統十九年... 宣統二十年... 宣統二十一年... 宣統二十二年... 宣統二十三年... 宣統二十四年... 宣統二十五年... 宣統二十六年... 宣統二十七年... 宣統二十八年... 宣統二十九年... 宣統三十年... 宣統三十一年... 宣統三十二年... 宣統三十三年... 宣統三十四年... 宣統三十五年... 宣統三十六年... 宣統三十七年... 宣統三十八年... 宣統三十九年... 宣統四十年... 宣統四十一年... 宣統四十二年... 宣統四十三年... 宣統四十四年... 宣統四十五年... 宣統四十六年... 宣統四十七年... 宣統四十八年... 宣統四十九年... 宣統五十年... 宣統五十一年... 宣統五十二年... 宣統五十三年... 宣統五十四年... 宣統五十五年... 宣統五十六年... 宣統五十七年... 宣統五十八年... 宣統五十九年... 宣統六十年... 宣統六十一年... 宣統六十二年... 宣統六十三年... 宣統六十四年... 宣統六十五年... 宣統六十六年... 宣統六十七年... 宣統六十八年... 宣統六十九年... 宣統七十年... 宣統七十一年... 宣統七十二年... 宣統七十三年... 宣統七十四年... 宣統七十五年... 宣統七十六年... 宣統七十七年... 宣統七十八年... 宣統七十九年... 宣統八十年... 宣統八十一年... 宣統八十二年... 宣統八十三年... 宣統八十四年... 宣統八十五年... 宣統八十六年... 宣統八十七年... 宣統八十八年... 宣統八十九年... 宣統九十年... 宣統九十一年... 宣統九十二年... 宣統九十三年... 宣統九十四年... 宣統九十五年... 宣統九十六年... 宣統九十七年... 宣統九十八年... 宣統九十九年... 宣統一百年...

